

2016(H.28)年 度

障害者支援施設 あかりの家 事業報告書

2017. 3. 31 現在

2016(H.28)年度 障害者支援施設 あかりの家 実施事業

	事業名	事業開始年月日	
①	障害者支援施設あかりの家	施設入所 生活介護	'86(S.61). 4. 1 県指定
②	短期入所		'86(S.61). 9. 1 県指定
③	地域生活支援事業 日中一時支援事業(日中短期)		'07(H.19). 4. 1 6市2町委託事業
④	障害児等療育支援事業	兵庫県 姫路市	'07(H.19). 4. 1 県委託事業 '08(H.20). 4. 1 姫路市委託事業
⑤	被虐待障害者一時保護支援業務	高砂市 播磨町 稲美町	'13(H.25). 6. 1 高砂市委託事業 '14(H.26). 4. 1 播磨町委託事業 '17(H.29). 3. 1 稲美町委託事業

<他>①「グループホーム希望山荘日笠、オリーブの家」の連携施設('02(H.14).10.1、'15(H.27).10.1)

② 附置施設「ひょうご発達障害者支援センター クローバー」('03(H.15)12. 1)

③ わかば学園(加古川)グループホーム協力施設('12(H.24). 2)

④ 発達障害支援スーパーバイザー養成研修・実務研修 受入施設('14(H.26). 5)

⑤ 高砂市福祉避難所の指定に関する協定('14(H.26). 11)

⑥ 日本自閉症スペクトラム学会 資格認定実習施設('15(H.27). 1)

I 利用者状況('17年3月31日現在)

あかりの家利用契約者の分類(あかりの家独自の分類)

	呼称	
あかりの家 所属として 以下のカウ ント対象	①入所者	日中は生活介護
	②通所者	生活 介護
		⑥通所
		⑦ロングショート等は、行政と調整の上、夜はショート、日中は生活介護 で契約。あかりの家に所属。通所者として扱い、保護者に所属。
非あかりの 家所属 カウント対 象とせず	③ショート生活介護	ショートステイ利用者の内、療育目的等のケースは、行政と調整し、泊は ショート、日中は生活介護として契約。あかりの家には所属しない
	④ショートステイ	泊を伴う
	⑤日中一時	日中のみ

以下のカウントは、「あかりの家に所属」の、上記①、②を対象とする。

1 定員と現員

定員	現 員(あかりの家に籍を置く利用者の現員で、
40名	施設入所 40(男32、女8)
	生活介護 45(男36、女9) 入所者;40(男32、女8)、通所者5(男4、女1 ; 内、ショート系2)

内、入所利用者1名は、日中、WH 高砂の「就労B」利用。(あかりの家の「生活介護」にも籍あり)

通所利用者1名は、週1日、WH 高砂の「生活介護」を利用。

2 利用者出身地(受給者証発行市町)

実施機関	利用者数		実施機関	利用者数	
	入所者	通所者		入所者	通所者
高砂市	5	2	神戸市	9	
加古川市	13	1	尾崎市	2	
播磨町	3		名古屋市	1	
姫路市	4	1	枚方市		1
小野市	2				
加東市	1		合計	40	5

左表ではカウントしていない、(あかりに籍を置かない生活介護契約者(分類の③「ショート生活介護」)

‘17年3月末現在、2名(姫路市、岡山県)、

‘16年度途中、契約・解除した利用者1名(明石市)

3月末付で入所1名退所(高砂市;GH友愛へ移行)

3 利用者年齢 ()は、通所者で内書

年齢	10代	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		合計(人)
	～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	～59	～64	～69	
男	0	1 (1)	1	3 (1)	1(1)	8	17(1)	4	1	0	0	36(4)
女	0	0	1	0	0	2	3 (1)	2	0	1	0	9(1)
合計	0	1 (1)	2	3(1)	1(1)	10	20(2)	6	1	1	0	45(5)
(計)	0	3(1)		4(2)		30(2)		7		1		45(5)

最年少21歳(前年度比+1)、最年長62歳(前年度比+1)、平均44.2歳(前年度比+1)

4 障害等の程度 ()は通所者で内書

(1)知的障害の程度(「療育手帳」の判定による)

	重度	中度	軽度	合計(人)
男	35(4)	1	0	36(4)
女	9(1)	0	0	9(1)
計	44(5)	1	0	45(5)
比率	97.8%	2.2%	0%	100%

(2)障害支援区分

	区分6	区分5	区分4	区分3	合計(人)
男	31(2)	4(1)	1(1)	0	36(4)
女	4	5(1)	0	0	9(1)
計	33(1)	8(2)	3(1)	0	45(5)
比率	78%	20%	2%	0%	100%

(3)自閉症または自閉的傾向を有する者(入所時の諸書類などをもとに集計)

	男	女	計
人員	34(3)/36(4)	5(1)/9(1)人	39(4)/45(5)
比率	94%	56%	87%

(4)強度行動障害(厚労省の判定基準による。’06年とそれ以降順次、あかりの家で採点)

	男	女	計	総計
10～19点	5	2	7	22(3)/45(5)
20点以上	12(2)	3(1)	15(3)	(49%)

(5)その他の障害

		男	女	計	総計
肢 体	手帳所持	0	0	0	0
	不所持	0	0	0	

5 入退所の状況(あかりの家在籍者) ※あかりの家開所'86年4月、分場開設99年4月

	年度	86	87	88	89	90	91	92	93	94 ~98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	計
入 所	入所	38	5	5	4	5	2	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1	1	1	0	2	1	0	2	0	0	0	0	70
	退所	1	7	2	5	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	1	1	1	1	1	0	0	0	1	31
通 所	入所										11	0	0	1						1	0	1	0	2	3	0	1	0	20
	退所										0	0	0	12						0	0	1	0	0	0	1	1	0	15
合 計	入所	38	5	5	4	5	2	0	1	0	11	0	0	1	0	2	1	1	1	1	2	2	0	4	3	0	1	0	90
	退所	1	7	2	5	3	1	1	0	0	0	0	0	12	0	2	1	2	0	1	1	2	1	1	0	1	1	1	46

※「通所」①あかりの家四郷分場; '99年4月開所し、'03年3月授産施設開設に伴い閉鎖(形式上退所)

②新体系に移行した'08年度より、通所利用者受入れ。

③あかりの家に籍を置く長期短期入所利用者等は、通所者として扱って計上。(①の分類参照)

上の表でカウントしていない、生活介護契約者の内、あかりの家に籍を置かないショート利用者は、
'15年度実績2名。

6 在籍年数(通所者含。通所から入所等の移行者は通算。4/1 入所は翌年3/31 で在籍満1年とする)

年	31	30	29	28	27	26	25	24	23~13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	計
男	14	2	2	2	2	2	1	1	0	1	0	2	1	1	1	0	0	2	1	1	0	0	36
女	2	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	9
計	16	3	3	2	3	3	1	1	0	1	0	2	1	1	2	0	0	4	1	1	0	0	45

全利用者平均在籍年数22.9年 / 男子平均年数23.2年 / 女子平均年数21.4年

入所者平均在籍年数 25.2年 / 入所男平均年数25.6年 / 入所女平均年数23.6年

通所者平均在籍年数 4.5年 / 通所男平均年数 4.5年 / 通所女平均年数 4.3年

Ⅱ 生活の概況

1 日課(月~金)

6:30	起床
8:00	朝食
8:30	歯磨き、清掃(引継ぎ)
(9:15)	職員引継ぎ)
10:00	ランニング、お茶・牛乳
10:30	作業
12:00	昼食(一部作業班は外食)
13:30	作業
15:15	ティータイム
15:30	入浴(毎日)・自由時間
17:30	夕食
21:00	就寝

土日祝、ランニングや作業なし
非帰省日の土曜日にはクラブ活動実施
隔週で、週末帰省日設定(希望者)

2 余暇活動

- ①夜の時間帯 絵描き、工作、パズル、雑誌、国語ドリル等の学習、お茶、トモニ100並べなど。
- ②担当者による任意の買物や喫茶店行、散髪、作業工賃での自販機やコンビニでの買物、喫茶店行等
- ③ボランティアグループ・秋桜会による「あかり喫茶」(飲み物とケーキ。月1回、第三金曜日中心)
- ④祝祭日や週末など、休日のドライブや散歩及び喫茶店などの外出

3 療育活動

(1)トモニ活動・・・トモニ活動チーム支援員7人を中心に活動(13年度より実施)

トモニ療育研修で、河島先生・高橋先生から教えて頂いたことを日常の中で実践。

- ①平日課題学習 数字(100並べ、タイル並べ)、時計、お金、本読み、漢字、折り紙、書き取り等
月曜日と木曜日の午後に、マンツーマンでの課題学習を行う。月曜日は一年を通してAさん、木曜日は3名の利用者の課題学習を行った。

②休日料理活動

- 11/4 30周年記念式典記念品として芋ようかんを作り渡した
- 12/27 忘年会おみやげとして、1階りんごポテトケーキ、2階芋けんぴを作り渡した。
- ・帰省週以外の日曜日(前半が1階、後半が2階)に全員参加でおやつ作りを行った
- ・技術向上のための練習として、8月～12月の間は毎週水曜日の午後に芋ようかんとお土産メニュー作りを行った

(2) 体操活動

毎水曜日、隔週土曜日 13:30～15:00 に活動。ダイナミックリズム(DR)や模倣運動を中心に実施。療育的な意味に加え、職員育成、特に新人職員研修を狙っている。現場において集団全体を見る力をつける機会としても考えている。目の前で、利用者の変化を実感しやすい活動になっている。

4 クラブ活動

	参加者	実施状況	指導者	実施内容
華道	5人	月2回 隔週、土曜 午前1時間	松尾豊華先生(ボランティア)	92年10月開始。松尾先生(小原流家元)購入の花を先生指導のもと活ける。活けた花は玄関や交流ホーム、クローバー、事務所等に飾る。
音楽	8人	月1回 (8月は休み) 土曜 or 日曜 13:30～1時間	永江きよみ先生(ボランティア)	98年10月開始。音楽療法として「音楽の特性を生かして、心と心を響かせあう。」宮本啓子音楽療法を勉強中の永江先生が中心になって始まる。ダンス、歌、リズムなど体感するものや楽器等を通じて表現するものなど幅広い。
アート	3人	月1回 木曜日 午後1時間	安部武先生(ボランティア)	99年1月開始。粘土、自由絵、また季節的な風作り・面作りなどの創作活動を実施。1月高砂市美術展(奨励賞)。交流ホーム1F(04. 10より)をアトリエとして使用。2013年8月より、先生のご都合で活動が木曜日に変更となる。

5 行事関係

(1) 一般行事 (主な行事)

月	行事名	月	行事名
5	第10回のじぎくスポーツ大会(三木市)	12	第30回高砂マラソン
6	第28回ばんたん親善運動会(加古川市)		第25回ナイスハートバザール(高砂アスパ)
8	第26回あかりまつり		忘年会(保護者参加)
11	親子一泊旅行(広島・宮島方面)	1	もちつき会
	加古川ツーデーマーチ		
	第25回ばんたんゆうあい文化祭(見学)		

※ 親子一泊旅行 日程 10月21日(金)～10月22日(土)

参加者 利用者38名 保護者34名 職員33名(計、105名参加)

行き先 広島方面(広島平和公園・厳島神社)

(2) グループ別小旅行「レインボーデイ」

小グループ(原則利用者2に支援員2)に分け、各担当の企画で県内外を日帰り旅行。「療育の成果を生活に返していく」趣旨で、公用車での外出を原則公共交通機関(電車、バス)利用に変更。当年度は全員公共交通機関を使用して実施。

北野工房のまち、杵屋、須磨海浜水族園、神戸布引ハーブ園、六甲山牧場、みとろ荘、神戸どうぶつ王国、ニフレル、ユニバーサルスタジオジャパン、三井アウトレットパークマリニピア神戸、アートアクアリウム展、あべのハルカス、ミント神戸、姫路どうぶつ園、ぷらっときすみの(そば打ち体験)、手塚治虫記念館

(3) スポーツ行事

- ①播淡親善運動会 5/27(金) 於、加古川運動公園陸上競技場 5人参加
- ②のじくスポーツ大会(5月21日、28日三木市防災総合運動公園陸上競技場) 保護者応援・見学
100m走: 1人、走り幅跳び: 1人、フライングディスクアキュラシー(5M): 7人が出場。
フライングディスクアキュラシー(5M) 金メダル2人 銀メダル2人 銅メダル2人
走り幅跳び 銀メダル1人
- ③第30回高砂マラソン(12月4日、加古川河川敷マラソンコースにて実施)
5km 6人、2km 3人 計9人出場
- ④加古川ツーデーマーチ11/13(日) 利用者9人参加(2回目参加)

(4) あかり喫茶

帰省日のない最終金曜日午後、ボランティアグループ秋桜会(3~6人)の応援で、毎月実施。
随時グループで参加し、アサヒ班は午後の作業を早めに切り上げて参加。
写真で飲み物(コーヒーやジュース、コーラ等)を選び、ケーキ類も何種類か選ぶ。

6 設定帰省等

保護者会の希望により、開設時から毎週末2泊3日実施。3年目途中より隔週2泊3日帰省、
05年度より隔週1泊2日となる。帰省は希望により自由、期末帰省を更に短くする。

- ①週末帰省(隔週末1泊2日原則) 毎週末帰省5人程度、2泊帰省人6程度、帰省なし7人程度
- ②期末帰省(夏季4日間、冬季6日間、春季4日間) 期末帰省なし8人

7 生活環境の整備、備品等の購入設置

- (1) 環境整備; 保護者会協力の下、職員、利用者、保護者で年1回11月草刈り作業を実施
- (2) 備品の購入

Ⅲ 作業の概況

1 作業内容(月曜日午後、火曜日から金曜日の午前午後作業) 利用者40名 通所5名 計45名

(1) 施設内作業・3月末現在(4作業種35人(通所5人含む))

割り箸班	8人	軽作業棟。割り箸の袋詰め等。(株) マスキ 作業提供。
さをり織り班	7人	さをり作業棟。さをり糸(一部播州糸、帆布糸)を利用して反物織り。製品化は、さをり製品化ボランティア「さをりの会」(保護者、隔週実施)や職員による。
軽作業班	10人	軽作業棟。アース製薬商品の分別、リサイクル作業。(有) ハタリサイクルファクトリー作業提供。
プラグ班	10人	さをり作業棟。電気部品組み立て。(コンタクト ロックレバー 端子台 受け金ホルダー など)(有) 米田製作所作業提供。

(2) 施設外作業・3月末現在(4作業種12人(通所1人含む)+公園清掃(重複))

マスキ班	4人	(株) マスキの工場の一室を借り、割り箸袋詰め等の作業。徒歩または公用車で職員1人引率。
ハタ班	6人	(有) ハタリサイクルファクトリーの姫路市船津の作業場に車で通勤。アース製薬商品の分別、リサイクル作業。職員1名引率。弁当はあかりより職員配達。10月末で終了。(倉庫・作業場の閉鎖のため)
公園清掃	非固定	(財)高砂市施設利用振興財団から委託(05.4~)。日笠山中腹「くすの木公園」の清掃。月1~2回、1名の職員がその都度2名ほどの利用者と、主として草刈作業を実施。次年度から、WHの作業として実施。
WH高砂	1人 1人 重複	WH利用者として、クリーニング作業に従事 1人が自転車自力通所(就労継続B型)、1人が週1回家庭より通所(生活介護)
あさひ班(新作業)	5人	11月1日開始 (株) 旭運送プロジェクト事業部内にて、ライン作業の下準備等の作業を行う。弁当はあかりの家より職員配達。

2 作業班強化

(1) 作業班整備

①ハタ班（船津倉庫）の撤退

環境的な厳しさ、夏の暑さ、冬の寒さ、作業内容としても身体的な影響（殺虫剤などの薬品によるかぶれなど）などもあり、ハタリサイクルファクトリーの社長とも話し合いの上10月末で撤退する。

②新作業 旭班立ち上げ

ハタ作業の撤退もあり、11月より旭班として新たな作業班を立ち上げる。(株)旭運送プロジェクト事業部内にて、ライン作業の下準備の作業を行っている。室内作業による作業環境の改善、作業内容としても箱折り、のし折り、ダイレクトメールの宛名はり、サンプル商品の袋詰めなど多様な作業内容を行っている。

(2) 生産、報酬、消費サイクルの展開

工賃を消費サイクル（労働→報酬→消費）に乗せるための活動。形態は、作業班毎に工夫。（班毎に、あるいは個別に、コーヒーマグネットをトークン、出来高制、特別ボーナスなど）

(3) 作業班編成（利用者編成）

利用者の高齢化および体調面への配慮、また作業ノルマや作業種別に応じて作業メンバーをその都度変更。体調面への配慮としては、利用者個別判断が必要であり、暑さ、寒さ、アレルギーなどへの配慮を考えつつも、より利用者が意欲的に活動できる作業提供を考え実施している。

3 福祉バザー、作業製品展示・販売等

月1回	チャレンジショップ きずな	東播磨県民局	2012/4/4 県民局主導の下オープン。東播磨圏域の授産製品販売ショップ(常設)。あかりは月1回、月曜日に出店。利用者と参加。→2015年度は不参加。9月に試験的に行われた共同販売には参加。
5/15	まほろばカーニバル	三木光司園	利用者と、さをり織り商品販売。
7・10・2月	きずな ふれあいマーケット	東播磨県民局	利用者と、さをり織り商品の販売
11/20	第26回みんなの社協フェア	高砂文化会館	さをり織り商品の販売。利用者と参加。
12/10.11	第23回 あかりの家 ナイスハートバザール	アスパ高砂	さをり織り商品の販売。利用者の実演とお客さんの体験コーナー設置。パネルによるあかりの家紹介。
8/30	Aspa高砂福祉バザー	アスパ高砂	リハビリセンター主催の授産製品販売活動
6/21・ 10/18・ 3/7	きずな 手作品市	アスパ高砂	東播磨ネットワーク主催の授産製品販売活動。利用者と一緒にさをり織り商品の販売。H28年度はあかりの家が調整担当を行った。

4 さをり織り委託販売

	場所	開始年月日	販売傾向	経過
ヘアーサロン「采」	姫路市 呉服町	2009/9/12	シュシュ、ストール等	退職職員が、通っているヘアサロンを紹介。姉妹店にも商品を置いて下さっている。
高砂ブランド協会「ちちり」	高砂市高砂 町浜田町	2010/2/25	ポーチ、キーホルダー等	主任の個人的な地域活動を通して紹介。高砂の文化を発信するアンテナショップ。

5 職場見学等 福祉バザーなどに参加。ナイスハートバザールでは実演もする。

6 作業収入と工賃支給

作業収入；計2,252,992円・・・内、工賃支給；計916,200円、軍手、工具等の直接経費；599,765円
作業工賃基準・・・1人 18,000円/年支給。

但し、外勤のハタ班は24,000円/年、プラグ作業延長組30,000円/年（作業時間6時間）

※作業工賃基準→1,500円/月 ハタ班2,000円/月 プラグ作業延長組 2,500円/月

Ⅳ 健康管理

1 入通院の状況

科 名	通 院		入 院	
	延人数	延日数	件数	延日数
内 科	6 7	8 9	0	0
外 科	3	3	0	0
整形外科	1 5	1 9	1	2 9
歯 科	5 1 4	5 5 8	0	0
眼 科	1 5	1 9	0	0
皮 膚 科	4 2	5 5	0	0
耳 鼻 科	2 2	2 2	0	0
精 神 科	2 5	3 9	0	0
婦 人 科	3	3	0	0
肛 門 科	4 1	4 5	0	0
そ の 他	2 1	2 4	0	0
計	7 6 8	8 7 6	1	2 9

通院については、月ごとの集計を単純加算。従って、月をまたいだ通院は二重カウントの形になり「延人数」として表記。

入院は、把握可能なため二重カウントはなく、「件数」として表記。

入院1件は、大腿骨頸部骨折のため人工関節置換術をした。

<精神科通院>は、幼少期からの主治医に保護者によって通院することが原則（嘱託医の方針）。保護者による通院はカウントしていないため、通院数は少ない。

2 常用服薬者

		男	女	計
精神科薬	てんかん	1 7	3	2 0
	安定剤・眠剤等	1 7	6	2 3
内科系薬（整腸・肝臓・貧血、便秘等）		2 6	8	3 4
皮膚科系薬（水虫・湿疹等）		1 5	3	1 8
整形外科系薬（Ca 剤・骨粗しょう症等）		2	0	2
眼科系薬（白内障等）		5	0	5
延べ総計（2重カウントあり）		8 2	2 0	1 0 2

内科系では、半数の20人が便秘薬を服用。

3 健康診断・身体測定等

月	実 施 内 容	月	実 施 内 容
4	身体測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導）	10	身体測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導）
5	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導）	11	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導）
6	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導）	12	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導）
7	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導） 健康診断（職員）	1	身体測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導） 健康診断（利用者と変則勤務職員）
8	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導）	2	体重測定、（インフルエンザの為、歯科検診なし）
9	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導）	3	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導）

健康診断；利用者は1月23日にあかりの家にて実施（加古川総合保健センター）
検診科目（身長、体重、腹囲、血圧、尿、胸部レントゲン、採血、心電図、内診）

4 ランニング

月～金、朝の引継ぎ後（作業前）、9時50分頃から10時15分頃まで、準備体操、ランニング、お茶飲み実施。（マスキ班を除く外作業の利用者は不参加）。自立グループ用のコースも継続。

5 ウォーキング班・ダイエット班(1F企画日課)

起床後、職員1人と一部の利用者で、ダイエット目的でウォーキングを実施。（15年1月より）

16年3月、ダイエット目的を外して、1人の職員と3人の利用者で“朝の空気を吸う”ウォーキングに切り替える。なお、ウォーキングマシン等で、ダイエット目的の班も組んでいる。

17年1月より、グループホームに向けての個別取り組み時間確保の為、朝のウォーキングを一時中断。

6 整体（健康・医療の方向から）

毎週木曜日、居室にて13：00から2時間、腰痛の人や筋緊張の高い人などを中心に6人が、永田雄三先生（柔道整復師）にマッサージをしてもらっている。（Ⅵ1の（5）参照）

7 その他

11／16 インフルエンザ予防接種。保護者の希望をとり、2人を除いて全員が接種、罹患患者7人。今年度は、ノロウイルスに感染することはなかった。

V 支援部・調理部からの年度総括

<1Fフロア>

1. 利用者

- ・入所者 21 名、通所 2 名の合計 23 名の利用者所属となった。
- ・H29 年度 4 月のグループホーム友愛の家開設に向けて、1F から 1 名の利用者を移行してもらう為に、必要な取り組みを集中的に実施(1 月～3 月)
- ・昨年度に引き続き、減薬の取り組み、調整を行っている B さんについて、支援による減薬(豊かな付き合いによる安心感、信頼による状態の安定)に組み込み、日常の付き合い、細かな記録の記載など現在も継続して取り組んでいる。
- ・骨粗鬆症、嚥下や咀嚼、高齢化への、介護的な支援が徐々に必要となってきた。(継続課題)

2. 職員

- (1) 新任を 3 名迎え、女性 11 名、男性 4 名の 15 名で運営した。(プラス パート職員 2 名)
- (2) 男性主任 1 名の児童デイへの異動、女性支援員 2 名の 2F への異動など職員体制として大きな変化がある中、新人の育ちを意識した中で、中堅(2 年目以降の職員を含む)職員が個々に必要な動きを自主的に行ってくれていた。大きな人的な環境変化、3 名の新人を迎え入れた中であつたが、職員同士が連携、情報を共有しながら支援に取り組むことができた。
- (3) 病欠等で長期(1 か月単位)での休職があつたが、その期間についても勤務の細かな調整を行い、フロア全体でフォローしていくことが出来た。そういった状況の中、逆に個々が責任をもって必要な動きを自主的に行っていく雰囲気が感じられた。

3. 主な活動内容

(結果1 GH に向けた取り組み)

A さんの H27 年度からのグループホーム移行へ向けての取り組みを集中的に実施(1 月～3 月)フロアで統一した取り組みを行い、経過を観察、見直し、新たな取り組みとそれぞれの職員が情報の共有を意識して一丸となって取り組むことができた。

(結果2 かくたつ療育研修)

第1回かくたつ療育研修(B さん)については、個別ケースとして初めて女性職員のみでのケース検討を実施。付き合いの幅、対応の手数、アイデアなどいろいろと考える機会となった。B さんのうごきづらさ「かたまり」についての視点も加わり、動ける為の支援を惜しまずに付き合っていくことなどを確認出来た。第2回かくたつ療育研修については、日常の支援における視点の再確認といったテーマで実施。特別な環境、設定ではなく日常の支援場面における職員の視点、意識の感度を再度見直し、磨き続けるきっかけとなった。当たり前に流れている日常における視点の維持、向上の難しさを感じた反面、マンネリ、惰性に成り下がっていた自分たちの支援のいたるなさも反省させられた。

(結果3 トモニ全体研修)

フロアで E さん F さん G さん 3 名の利用者研修を実施。それぞれがチームとして活動し、これまでの担当者中心になって学ぶ研修から、全体を巻き込んでの研修として機能し、チームでの取り組み、他のメンバーの視点や思考、取り組み方など多方面から参考、学びになることが多い研修となった。研修での学びを日々の実践に返していくことで、少しでも利用者の生活の豊かさへ繋げて行ければと考えている。

(結果4 新任職員 中堅職員の育ち)

先輩職員のアドバイスやフォロー、また職員自らが学ぼうとする姿勢からそれぞれに成長して1年を終えられたと感じている。1年目はもちろん。2年目、3年目。それ以上の職員は後輩育成の中から見えて難しさや、自分の課題に気づき、向き合うことそのものが成長の一步のように評価している。のびしろはまだある。

※育ち≡守る この違いは意識しておきたい。

(結果5 ケースでの結果)

劇的な療育成果といった結果は得られていないが、大幅な職員異動や新人を 3 名迎えた中でのチームでの支援において、大きく状態を崩すようなケースもなく1年を終えることができた。担当中心で利用者の状態を把握し修正していきながらも、担当だけでなくチームで動く意識を少しずつではあるが支援員それぞれが実践してくれた結果でもあると考えている。改めてチームの大切さ、チームの連携の重要性を実感した。

4. 総括と来年度に向けた課題

年度当初より、フロアとしてのチームの状況が不安定な中、常にベストな結果を求めて支援することが難しい状況が続く、前期～中期においては“乗り切る”“しのぐ”といった、一歩引きさがつた態勢での支援が続いた。しかし、その中でも「ここだけは押さえておかない」といった視点を持ち続け支援することで、何とか乗り切ることができた。

と評価している。そういった厳しい状況の中でも、チームとして常に意識していた点の1つとして、新人職員の成長がある。厳しいフロア体制を盛り返し、出来るだけ早く支援の成果を利用者へ返していくためには新人職員の成長、力をつけてもらうことが非常に重要である。3名の女性新人支援員を迎え入れ、新任職員研修担当者もかなり大変な思いをしつつも、非常に丁寧に指導に当たってもらったと感じている。そういった指導の成果が中期～後期には新人支援力となって利用者に、チームに返ってきたことで、1年を締めくくる時期にはチームとしての形が少しずつ見てきたと考えている。

1年間がとても長く、またしんどい1年ではあったが、その中で悩むこと、考える事、動くこと、失敗したこと、成功したこと、悲しかった、嬉しかったそういったたくさんの出来事が、それぞれの職員に経験となって積み重なっていつてくれているはずであり、この1年間を乗り切ったことで、来年度にはタフな職員チームを率いて支援を組み立てていきたいと思っている。
(1Fフロアー長 尾崎 勇一)

<2Fフロアー>

昨年度に引き続き、“支援力の底上げ”、特に若手職員の“育ち”を年間を通してのテーマとした。一方、利用者に関して、高校卒業後、進路先が見つからない利用者(Aさん)に対する取り組み(4月～8月)、年間を通じて困難事例(Bさん)への取り組みや自閉症総合援助センター構想を意識した取り組み(Cさん)等を中心に実践、展開してきた。

1. 主要な取り組み

(1) Aさん リハビリのショートステイによる取り組み

2015年3月高等部卒業後、進路が見つからないAさんの受け入れを行った。「クウ・ネル・ダス/デル」の確立を主題としてフロア長・サブフロア長を中心に2Fチーム全体で支援を展開した。受け入れ当初は頻回なパニック等が見られ、大変な状況であったが、基本的な生活習慣(「クウ・ネル・ダス/デル」)を確立し、8月頃に地域へ返していった。現在、家庭支援の課題を残しつつも、彼を支える主軸施設を他施設へ移行し、月1～2回ペースであかりの家としても受け入れ、支援を行っている。

(2) 困難事例に対応できるチーム力を高める —Bさん週末帰省後のパニック様状態の立て直し、およびBさんとの安堵した付き合いの模索—

これまで数年間の支援を基礎としながら新たな展開を期待し、2015年度より、Bさんの利用者担当の変更を行った。昨年度までと同様に、週末帰省後、長期帰省後の状態の立て直しが主題であった。その中で、安堵した付き合いの模索を行ないながら、2F職員それぞれが彼との関係を少しずつ積み上げている。安定軌道に乗りつつあるが、やはり帰省後の対応には苦慮しているのが現状である。

(3) 自閉症総合援助センター構想を意識した取り組み(Cさん)

高校を卒業し2年前よりあかりの家に通所し始めたCさん。昨年度に引き続き、あかりからワークホームへ移行していくWHと協働での“初の試み”を展開中である。2015年7月より正式にWH生活介護利用者として念願の契約を結び、現在週1回ではあるが利用をしている。家庭から“自力通所”することにも今後は挑戦していく。

(4) 県外から行動障害の激しい利用者(Dさん)を受け入れる

あかりの家SVである片倉厚子先生より依頼を受け、県外のDさんの受け入れを月1回ペースで行ってきた。「基本のキ」を抑えながら、家族の休息、本人の今後に向けた施設体験、我々支援員の支援力向上といったことを主題に取り組みを行ってきた。彼の人生の応援をしつつ、彼から学び、利用者・職員双方が育っていく機会としたい。

2. 総括と来年度に向けての課題

今年度は上に挙げた4事例を中心にフロアの取り組みを行ってきた。慌ただしい1年であったが、行動障害の激しい彼らの応援には“支援力”の向上が欠かせないテーマである。対応の技術を磨きながら、職員それぞれの思想・価値観を高めていく、深めていくこともフロア長として意識して取り組んできた。その中で、「支援の拡がり、奥行き、利用者の可能性」といった支援観・自閉症観・自身の価値観等が少しずつではあるが、深まりつつある。今年度の学びをおさえつつ、来年度は、“自立の思想を進展させる”をテーマに利用者と職員が一緒に成長していくチーム作りを目指していきたい。
(2Fフロア長 前阪 敬介)

<医務室>

1 健康診断(年1回)

再検が必要な利用者には協力医院である井野病院で、血液検査やCT検査、心電図等を受け、結果は必ず保護者に説明している。5人が肝機能障害のため精密検査を受けた。結果はてんかんの薬の影響によるもの。

- 2 日々の健康観察
丁寧な健康観察は、利用者の体の変化に早く気づき、回復を早める。また、園内感染も最小限に防ぐ。
- 3 インフルエンザや感染症予防
2名を除いてインフルエンザ予防接種を43人が受けた。高砂市周辺のインフルエンザ情報を参考に、手洗いを徹底し、うがいのできる人にはうがいを実施した。また今年度は、毎日検温を実施し、早期発見に努めたが7人が感染した。
感染症発生時のマニュアルを作成し消毒等を徹底した成果があったのか、ノロウイルスの嘔吐、下痢の症状も診ることもなかった。
- 4 歯科検診
16年度から毎月、利用者全員にブラッシング指導と歯石の除去をしてもらうことにより歯茎からの出血もなくなり健康な歯茎になってきている。園でも朝、昼、夕の食後には一人ひとり丁寧に歯磨きをして、歯間ブラシの必要な人には昼食後に実施している。
- 5 痔、腰痛対策
痔や腰痛の人が増え今年の冬は、これ以上悪化させないように、全職員で取り組んだ。（看護師 藤田照代）

<調理部>

- ① 栄養ケアマネジメント開始(初)
- ② グループホーム夕食実施(3月～)
- ③ 大行事食・・・あかり祭り(8月)、あかり忘年会(12)
- ④ 行事食(ひなまつり・秋祭り・節分等)
- ⑤ 餅つき大会(1月)
- ⑥ 調査・・・忘年会メニュー嗜好調査(12月)、市場価格調査(2月)
- ⑦ 「あかりキッチン」(保護者通信・「あかりっこ」に同封)発行(12回)

Ⅵ 職員研修

1 支援員研修

- (1) 第23回あかりの家事例研究会(2/26(日)10時～15時 於あかりの家地域交流ホーム)
テーマ: ①全体 ②三気の里 熊本地震報告 ③独り言(三原園長)
④「4年と4か月。3年と8か月」(宝塚育成事業所 所長 松下祐介)
助言者 (有)かくたつグループ 代表取締役 片倉厚子先生
事例発表 あかりの家支援員(主に資料作成担当、新規採用キーワード発表者)
参加者 あかりの家職員、WH 施設長及び有志職員、内定支援員、三気の里職員3人 計約55人
研究会用冊子の発行(75部)
事後研修 事例研究会後、レポートと質問を片倉厚子先生に提出し、質問にはコメントが返ってくる。
※事例研究誌の製本を、クローバー相談利用者で引きこもり気味の方3人に依頼
(昨年度に引き続き3回目)

- (2) 学習会・相談日(嘱託医平井先生による。週末帰宅の土曜日午後3時間の支援員研修)

①	5/28(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
②	6/25(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
③	7/16(土)	平井 Dr.	ケース会議(Aさん 自主的に作業をこなせる設定とは?)
④	8/27(土)	平井 Dr.	ケース会議(Bさん ルールを守る為には?)
⑤	9/17(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑥	10/15(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑦	11/19(土)	平井 Dr.	ケース会議(Cさん スケジュールの提示について)
⑧	12/17(土)	平井 Dr.	ケース会議(あかりの家 30周年パーティーの為中止)
⑨	1/28(土)	平井 Dr.	ケース会議(インフルエンザ蔓延の為中止)
⑩	2/18(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談

(3)かくたつ療育研修 (2000 年 10 月～)

スーパーバイザー(有)かくたつグループ代表取締役 片倉厚子先生

①	6/26(日)	ショートステイIさんケース会議と実地研修・Iさんケース会議
②	10/30(日)	Mさんケース会議・OさんNさんケース会議

事前に資料を作成し送付。当日、実地研修およびケース会議を行い、日常の支援に活かすポイントやエッセンスを学ぶ。研修終了後、利用者把握で参加できなかった支援員に、参加支援員が説明。

昨年度は、各フロアよりケースを選定し、研修を実施。

研修終了後、各支援員は「研修を終えて(①療育ポイントと感じたこと②質問等)」のレポートを提出。後日、片倉厚子先生から質問等に対するコメントが送り返される。

(4)トモニ療育研修(2010 年 11 月～)

10年11月、トモニ療育センター(愛媛県)河島淳子先生・高橋知恵子先生を、講師招聘内部研修としてお招きしたのをきっかけに、療育研修として継続している。

<16年度のテーマ>

①「支援者の療育思想のチェンジ。とりわけ一方向的関係からの脱皮」

(「第一段階の教育」をおおむね突破したあかりの家のここ何年かの大きなテーマである)

②「トモニ療育を更にどう広げていくか」

(今まで「トモニ小集団(研修)」の中で「核なる職員」を作っていた流れを踏まえて)

<内容>

①第1回研修:平成28年5月12日(木)

平成28年度トモニ療育研修会の内容等について(打合わせ)、河島先生より、今年度のメインの取り組みである「100並べ」について、ねらいや関わる際の着眼点、また全体的な視点を学ぶ。

第1回研修を踏まえ、「100並べを通してTOTALな力量を身につける」ことを軸に、各フロアから計6名の利用者を取り上げた。前年度のトモニ担当をチームリーダーに据えた職員チーム(4～5名)を作り、日常取り組んでいった。その実地研修を実施。

②第2回研修:9月23日(金)、9月24日(土)

各チーム単位での研修実施。100並べを軸に職員が課題学習を行い、アドバイスをいただいた。

参加者 30人程度・・・支援員、施設長、クローバー職員

③第3回研修:H28年2月10日(金)11日(土)

第1回研修の助言を基に取り組んできた課題学習を各チーム単位で行い、アドバイスをいただいた。

参加者 30人程度・・・支援員、施設長、クローバー職員

「全体に広げていく」というテーマの中、進めていったが、「やったからこそ、アドバイスできる(河島先生)」とおっしゃってくださったように、トモニ療育をより身近なものとして、実感できた。

また、「課題学習を通して、職員はその利用者への見方が変わったか?それが、どう日常に反映されているか?」との問いかけがあった。この視点は、まさにあかりの家のテーマと重なると考えている。

(5) 全体

2007,2008年度の講師招聘研修に来ていただいた永田雄三先生(柔道整復師)の往診(毎週木曜日午後)を、職員研修として位置づけ。2017年度には、事例研究会でも全体を取り上げ、支援部全体に全体の知識を学ぶ機会があった。利用者が生活しやすいようになるための身体の動かし方や日常に取り入れられる働きかけのノウハウや、そのヒントを得る。そして、それを各担当者や各フロアにつなげ、実践していく。利用者との関わり方を広げる、関わり方の知識をつけるために、若手職員(1～3年目)を中心に学ぶようにしている。主に担当ケースを取り上げて診てもらいつつ、学んだことを現場でも活かせるように係から話をしている。

(6) 中堅職員研修 (休止)

(7) テーマ別個別実践課題（年2回実施）

「個別実践課題」の持つ意味（園長の“独り言”を振り返りつつ）―（16年中期末全体会議資料一部引用）

ここ数年のあかりの家の支援現場の療育的な歴史を振り返る。4年前「一歩引きさがって隊列を組み立て直す―しかし彼らの応援の志は確かに持ち続ける―（独り言20（2012/02））」時代があった。時期は前後するが、かくたつ療育研修の継続と同時にトモニ療育研修が開始（2011年～）された。さらには虐待防止に関しても継続的に検討し始めた時期でもある。支援現場として、療育観・自閉症観といったものを問い直す時期に入ってきたといえる。そして、昨年度（2015）は“短期決戦（独り言44）”が支援現場の主たるテーマであった。また、“土壌の入れ替え（独り言47・48）”についても坊垣副園長を中心に話があった。このままではあかりの家の5年先、10年先はない」という言葉に対して前坂自身も危機感を持ち、職員の育ちをどうするか？という課題にも直面している。

職員それぞれの“支援観や支援力”に幅を持たせていく、思想を変える、思想を豊かにする。利用者を見る視点を豊かにしていく」といったことをねらい、今年度も「個別実践課題」を継続する。

支援現場全職員を対象に「テーマ別個別実践課題（レポート作成）」に取り組み、前期末・中期末全体会議にて意見集約を行い、議論等を行った。

- ①「支援を通して“自然”・“一緒”を考える」2016/8/12（金）前期末全体会にて実施
- ②「支援を通して“双方向”を考える」2016/12/28（水）中期末全体会にて実施

(8) 施設見学、現任訓練等

12月	三気の里 かくたつ研修会参加・見学(2日)	熊本県	坊垣、内田、山口
9月	かくたつセルート作業実地研修	東京	道端

(9) 発達障害支援スーパーバイザー養成研修受講（日本自閉症協会・全自者協主催研修；23年目）

7	前期集合研修(3日)	東京	前坂／三原(2日)
9	実務研修 萌黄の郷(5日間)	大分県	前坂
10	実務研修 けやきの郷(5日間)	埼玉県	坊垣
12	実務研修 東やまた工房(5日間)	横浜市	前坂
3	後期集合研修(3日)	東京	前坂／三原(2日)

(10) 出張研修（主なもの）

月	研修内容(実質研修期間)	研修地	参加者
6	言葉を育てる(コロロ)	神戸	原、亀山、栗本
7	行動援護従事者養成研修(3日)	姫路	土井
7	強度行動障害支援者養成研修・実践研修(国研修；県から派遣)(2日)	所沢	坊垣
7	播磨地区職員研修会	小野	原
7等	サービス管理責任者研修(5日)	明石等	岸本、山口、
7等	相談支援従事者初任者研修(5日)	明石等	村田
7	さをり織指導者養成講座	神戸	鳴瀬
8	播磨地区施設長職員一泊研修	姫路	三原、坊垣、原谷、渡辺
8	はるにれの里・北摂杉の子会ジョイントセミナー	大阪	坊垣
11	第30回全自者協函館大会(2日)	函館	三原、齋藤、坊垣、尾崎
11	ひょうご家族ネット中央研修会・	神戸	三原
9	強度行動障害支援者養成研修(基礎：2日)	神戸	坊垣、尾崎、神戸
12	三気の里とのかくたつ合同研修	熊本	坊垣・山口・内田
12	強度行動障害支援者養成研修(実践：2日)	神戸	亀山、尾崎、神戸

2 新任職員研修（支援員）

（1）出張研修

月	研 修 内 容	研修地	参 加 者
5	障害福祉施設新任職員研修 Aコース	神戸	今後
6	障害福祉施設新任職員研修 Bコース	神戸	藤原

（2）内部研修（新任研修プログラムによる年間研修）

月	研 修 内 容
4	各部署レクチャー実施（事務、医務、調理、防災、各作業班、給食保健衛生部会長レク）地域支援については研修担当から説明程度にとどめた。各作業についても部長と見学程度にした。
5	自閉症支援の「基礎体力」をつけるレポート課題
5～7	現場実習レポート
6～3	保護者通信「あかりっこ」作成（新任支援員で持ちまわり）
7	課題レポート（夜勤について）
7	課題レポート「DVD『青山新吾 僕が自閉語を学ぶわけ～特別支援教育の今後を考える～』の第1部「僕が自閉語を学ぶわけ～第1段階の教育から第2段階の教育へ～」を見てレポート
8	期末レポート（自分の課題と質問）
8～2	現場実習レポート
11	課題レポート（実習生用キーワードを読んで）
12	期末レポート（自分の課題と質問）
2	嘱託医の平井 Dr.による相談
3	新任研修終了レポート（学んだこと、これからの意気込み）
通年	あかりの家に届く施設だよりの回覧。

3 保健衛生関係研修（主なもの）

月	研 修 内 容	研修地	参 加 者
7	てんかん基礎講座(2日)	大阪	原谷

4 調理員研修（主なもの）

月	研 修 内 容	研修地	参加者
4	給食協議会総会	高砂	宮内
6	水分摂取と熱中症予防	加古川	長谷
6	給食協議会	加古川	長谷
7	障害者施設の個別栄養管理の充実に向けて	加古川	長谷
9	給食施設相互支援実施訓練	高砂	宮内
12	栄養士・調理師研修(県社協)	神戸	船江
1	丸信食品展示会参加		長谷
1, 2	社会福祉施設給食管理練習会(東播磨県民局)	加古川	長谷
2	給食施設協議会実地訓練	高砂	内藤

5 運営・管理・経営的・事務な研修（主なもの）

月	研 修 内 容	研修地	参 加 者
5	障害支援区分認定調査員研修	神戸	坊垣
6	会計ソフト個別相談会	明石	藤原、金鹿
6	全国知的障害者施設長会議(2日)	東京	三原
7	法人制度改革の施行に向けた説明会	姫路	坊垣
5	安全運転管理者等講習会	明石	足立
11	65歳問題をひも解く	神戸	三原
11	社会福祉士実習指導者講習会(2日)	神戸	原
12	障がいのある方の災害時支援を考える	高砂	内田
12	加古川労働基準協会安全衛生大会	加古川	亀山

12	社会福祉法人制度改革の施行に向けた説明会	姫路	坊垣、藤原
2	会計実務担当者研修	神戸	藤原
2	法令改正等研修(社会保険関係・労働関係)(2日)	神戸	藤原
2	虐待対応力向上研修(県)	神戸	岸本
3	障害者総合支援法等関係者事業者説明会(県)	神戸	三原・斎藤・藤原
3	社会福祉法人制度改革対応セミナー	神戸	中右
3	障害者総合支援法等関係事業者説明会(姫路市)	姫路	中右

6 自己啓発研修

2件6人利用、他、『さばーと』購入補助)10人程度

VII 地域交流

1 ボランティア (6件 延べ130人程度)

- (1) 音楽クラブ指導(永江先生) 月1回 帰省日でない土曜または日曜日
- (2) 華道クラブ指導(松尾先生) 月2回 土曜日午前
- (3) アートクラブ(阿部先生) 月1回 木曜日午後
- (4) あかり喫茶(秋桜会 3～5人) 第3または第4金曜日 午後、月1回利用者用の喫茶店実施
- (5) 餅つき会(20人程度) 高砂を明るくする会、コスモス
- (6) さをり織り製品化ボランティア(保護者)

2 あかりの家行事への地域等からの参加 ボランティア以外、特になし

3 地域交流ホームの開放

- (1) 地域障害児者の和太鼓練習(月2回)
- (2) ボランティアグループ、高砂を明るくする会会合(数回)
- (3) 専門図書貸し出し

4 研修会等の後援等 特になし

5 地域行事等への参加等

- ①10/20 県道からの進入路管理の件で、北脇自治会、鹿島興産、高砂市、あかりの家で打ち合わせ(於いて、北脇自治会館)
- ②11/24・12/7 第3期高砂市地域福祉計画策定等に伴う北浜地区懇談会 出席
- ③1/14 北脇自治会新春ハイキング参加(利用者2名、職員1名)

6 広報

(1) ホームページ

新HP(3代目)13年7月18日にアップ。

新HP開設後、カウンター数の追跡が出来ていなかったが、2015年5月18日(月)に内部カウンター設置。

2017年2月28日(火)にスマートフォンで見れるようにサイトを変更。

また、同時に記事の更新方法をWordプレス形式に変更し、更新作業を簡易化した。

職員募集に果たすHPの役割が、ますます重要になっている。

スーパーバイザー養成研修でも、HPによってあかりの家を選択したとされた方が多い。

(2) 発刊物等

	発行日	発行部数	配布対象
保護者通信「あかりっこ」 No.319～ No.330	毎月	各 100 部程 延 1,000 部程度	保護者、法人役員・評議員、後援会役員、 採用内定者、ボランティア等
「あかりだより」0.No.26	8/1 (年1回)	1,000部	法人利用者保護者・職員、後援会員、地域 関係施設・全自者協施設・関係機関 30周年記念式典配布等
第23回「あかりの家事例研究会」	2/26	75部	あかりの家職員、講師、関係者 他

(3) 掲載記事等(新聞・雑誌・機関紙等)

姫路心身障害懇さぎそう 第44号	姫路心身障害市民懇 話会機関誌	4/17 児童デイ福原室長基調講演等の記録記事
世界啓発デー2016 (4/9 全社協難尾ホール)	当事者のメッセージ	Tさんのプラグ作業を3分間のビデオレターで参加
「ひょうごかぞくねっと」 No.37号 H.28.5	兵庫県知的障害者施 設家族連合会機関紙	2/10 東北播磨・淡路家族ネット研修会(講師;三原、浜 口)のあかりの家保護者会長報告記事
いとしご No.158 (2016.5.8)	日本自閉症協協会 機関紙	上記、世界啓発デーのビデオレターを、写真と文章に変 えた紹介記事
チャレンジショップ「きずな」商品カタ ログ(H28年度秋冬版)	東播磨障害者施設ネットワーク 授産製品販売ショップ	あかりの家さをり商品を写真で紹介

(4) 取材

9/28 関西福祉大学 大学案内等の制作に係る卒業生:道端祥子支援員の取材

(5) 展示・出展

展示、販売 (「P.6  「作業の概況」の「3 福祉バザー」、「4 さをり織り委託販売」参照)

7 あかりの家施設見学受入 … 9件41人(内、県外2件7人)

PTA・保護者		福祉事業所関係		教育・保育関係		行政・議員関係		地域関係者		当事者	
1件	24人	4件	9人	2件	2人	2件	6人	0件	0人	4件	43人

クローバやあいあむなど経由の見学者、短期利用希望者、外来相談関係等の見学者は把握できず

7/18 国リハ病院院長等、8/15 厚労省推進室長、兵庫県障害福祉課長等(あかりの家説明と見学)

8 あかりの家30周年事業

(1) 30周年記念式典

日 時:2016年11月4日(金)11:00~12:00

場 所:鹿島殿 高砂の間(高砂市阿弥陀町地徳275-3)

参加人数:171人(来賓 34人・利用者 45人・保護者 43人・職員 49人)

(2) 30周年記念祝賀会

日 時:2016年11月4日(金)12:15~13:45

場 所:鹿島殿 慶瑞の間(高砂市阿弥陀町地徳275-3)

参加人数:161人(来賓 24人・利用者 45人・保護者 43人・職員 49人)

(3) 30周年記念講演会

日 時:2016年12月17日(土)13:00~16:30

場 所:高砂市文化保健センター(高砂市高砂町朝日町1-2-1)

講 師:青山新吾 先生(ノートルダム清心女子大学准教授)

内 容:講演『僕が自閉語を学ぶわけ〜エピソードで語る教師力の極意〜』

青山先生との鼎談『あかりの家療育キーワードをとおして』

参加者数:220人(法人職員57人含む)

9 その他 記録的なこと

①12/4 兵庫県自閉症協会姫路ブロック40周年記念パーティー出席(三原)

VIII 地域支援

1 障害児等療育支援事業

(1) 兵庫県

	人・施設	件	障害・施設種別	人・施設	件	障害程度	人・施設	件
訪問療育等支援事業	30	120	自閉症等	17	96	重度	22	90
			知的障害	11	15	中度	2	2
			重症心身	0	0	軽度	4	23
			身体障害	0	0	その他	2	5
			その他	3	9			
施設支援指導事業	14	52	生活介護事業他	1	4	施設支援指導事業	14	52
			就労継続B型	4	11			
			地域活動支援センター	0	0			
			学校・保育園	8	37			
合計	44	172	合計	44	172	合計	44	172

福祉圏域	人・施設	件	利用理由	件
東播磨	42	155	療育相談	172
西播磨	2	17	療育援助	
但馬	0	0	教育相談	
北播磨	0	0	進路	
その他	0	0	その他	
合計	44	172	合計	172

(2) 姫路市

	人・施設	件	障害・施設種別	人・施設	件	障害程度	人・施設	件
訪問療育等支援事業	34	159	自閉症等	33	231	重度	34	245
			知的障害	1	14	中度	0	0
外来療育等支援事業	34	86	重症心身	0	0	軽度	0	0
			その他	0	0	その他	0	0
施設支援指導事業	5	19	生活介護他	5	19	(施設支援指導事業)	5	19
			就労継続B型	0	0			
			グループホーム	0	0			
合計	39	264	合計	39	264	合計	39	264

市町	人・施設	件	利用理由	件
姫路市	39	264	療育相談	112
			療育援助	152
			その他	0
合計	39	264	合計	264

2 短期入所（介護給付）68人（内、児童 11人、成人 57人）

利用形態		障害種別			利用理由		市 町					
形態	日	種別	人	日	理由	日	市町	人	日	市町	人	日
介護給付	2187	自閉	54	1901	療 育		高 砂	14	611	姫 路	17	477
私的契約	0		79%	82%	家庭内		加古川	23	433	神 戸	1	25
		知的	14	286	その他		播磨町	3	114	尼 崎	2	29
			18%	13%			稲美町	2	33	朝 来	1	4
		その他					明 石	2	72	県 外	3	389
計	2187	計	68	2187	計	2187				計	68	2187

3 日中一時支援事業（地域生活支援事業） 82人（うち児童 38人 成人44人）

利用形態	日	種 別	人	日	利用理由	日	人	日
地域生活支援	643	自閉	65	590	療 育		高 砂	19
			87%	91%	家庭都合		加古川	30
私的契約	0	知的	9	53	その他		明 石	2
			13%	9%			播磨町	3
		その他	0	0			稲美町	2
			0%	0%			姫路市	18
計	643	計	74	643	計		計	74
								643

4 被虐待者障害者一時保護支援（高砂市と播磨町・稲美町と契約）

高砂市	2月	1人	1件	3泊4日
-----	----	----	----	------

播磨町と稲美町は実績なし

5 姫路親子体操教室（兵庫県自閉症協会姫路ブロック事業）

こどもの身体への働きかけを通して、受容と主導のバランスをもった親子のいい関係作りをめざす。
三原施設長の高砂親子体操教室のプログラムを準用し、'95.7三原施設長が指導者として開始し、
'17年3月で593回実施。
基本は月2回土曜日10時から2時間実施。'15年度は、22回開催し、その内21回参加支援。
21回で延130組親子が参加。（あかりの家から三原を中心に、道端、後藤が支援）
他にSV養成研修生も延25人ほど参加。メンバーは小2から歳の男子10人。全員姫路市。

6 レモン作業教室

今年度から実施無し

7 講師、発表、寄稿等 ※（ ）は法人内職員

平成27 年度発達障害支援SV養成研修集合研修(センター全連協副会長)					7/26	講義	(和田)
『平成27年度発達障害支援SV養成研修 事業実施報告書』					H27. 3	原稿	亀山
「全自者協ニュース」48 号;対談 これからの全自者協の果たす役割					10月	対談	三原
「全自者協ニュース」49 号;SV 養成研修実務者意見交換会				3月	意見交換会	尾崎、三原	
かくたつ合同研修会(三気の里(熊本県))				12/4	発題	坊垣	
兵庫 県	強度行動障害支援者 養成研修	基礎研修	第1回	9/30・10/1	講師&演習補助	三原、亀山	
			第2回	10/29・30	講師&演習補助	三原	
		実践研修	12/21・22	講師・演習補助	三原、坊垣、(和田)		
兵庫県自閉症協会・神戸市自閉症協会 研修旅行					11/25・26	講師	坊垣
兵庫栄養調理製菓専門学校「ようこそ先輩」講義					5/18	講義	船江
神戸市社協障がい福祉施設中堅職員研修(自閉症の人たちの理解と応援)					2/17	講師	三原
姫路心身障害市民懇話会後援会「強度行動障害児・者支援」				4/17	基調講演・シンポジスト	福原	
サポートセンター翔(明石)施設内研修「自閉症療育やあかりの家の」					11/18	講師	福原
東はりま特別支援学校 校内研修会(卒業生Y君の事例報告等)					8/30	講師	前坂、三原
みんなの家(姫路市) 自閉症理解と支援					8/19	講師	亀山
行動援護従業者養成研修(姫路心身障害市民懇話会主催)				7月 (3日)	講師	三原、坊垣、亀山、尾崎、 前坂、(齋藤、和田、濱口)	
姫路しらさぎ特別支援学校 支援連絡会					11/22	メンバー	福原
障害福祉サービス事業所きらら(姫路市)					3/10	講師	尾崎
高砂市人権教育協議会就学前教育部会研修会					8/23	講師	福原
あかりの家30周年記念講演会				12/17	発題	坊垣、三原、岸本、原、村 田、(川崎)	

8 関係団体等への役員や職員派遣等

厚労省； 障害者総合福祉推進事業指定課題「発達障害者支援における専門性確保のための実地研修に関する調査」(社福)嬉泉受託事業		検討委員会委員	16年度	三原
全日本自閉症支援者協会 役員		副会長	10. 7～	三原
(社団)日本自閉症協会		施設部会 委員	05. 5～	三原
発達障害支援SV養成研修実行委員会		実行委員	16. 6～	三原
兵庫県自閉症協会		役員	98～	三原
姫路ブロック 姫路親子体操教室		指導者派遣	年間、95～	三原、道端、後藤
ひょうご・ゆめあいスポーツ大会 200メートル		陸上競技委員	16. 4～	安東
神戸市自閉症協会		顧問	11. 4～	三原
播磨地区 職員代表者会		スポーツ委員	16. 4～	原谷
播磨町	障害者福祉施策推進協議会(12/9～3/31)	委員	12. 12～	三原
	地域自立支援協議会推進会議	委員	10. 6～	三原
稲美町	地域自立支援協議会	委員	11. 4～	三原
高砂市	自立支援給付等審査会	審査委員	06. 6～	三原
	地域自立支援協議会	全体会 構成員	08. 2～	三原
		運営会議 委員	10. 6～	三原
		くらし部会 委員	12. 4～	三原
		こども部会 委員	14. 4～	福原
		障害福祉計画進捗評価会議 構成員		三原(濱口)
	高砂児童学園応援チーム	応援チーム 構成員	15. 7～	三原、(濱口・橋本)
社会福祉法人トリトン		評議員	16. 3～	坊垣

9 実習受入

(1) 発達障害支援スーパーバイザー養成研修・実務研修受入 ※全自者協、日本自閉症協会主催

①目的：発達障害者支援センターや全国自閉症者施設協議会職員、及び医療、保健、福祉、教育、労働の各分野に携わり、一定の実務経験のある方を対象に専門性と実践力を伴うスーパーバイザーを養成する為に実地研修の受け入れを行なう。

②受講者

	日時	期間	受講者
1	H28年9/5(月)～9/9(金)	5日	5名(県外4名、県内1名)
2	H28年10/3(月)～10/7(金)	5日	6名(県外3名、県内3名)
3	H28年12/12(月)～12/16(金)	5日	5名(県外4名、県内1名)

③実地研修プログラム(基本形)

	9:00	12:00	13:00	13:30	14:30	15:30	17:00	17:30
初日(月)			受付	開講式・オリエンテーション(施設見学含む) 講義1「あかりの家の自閉症支援」			意見交換会	18:30～ 懇親会
2日目(火)	臨床実習 あかりの家 (引継ぎ→ランニング→①プラグ班、②軽作業班)	休憩	講義2「行動障害のある人々への支援ー自閉症療育のキーワード集を通してー」		事例検討ーリハビリ的シヨートステイ		まとめ意見交換	
3日目(水)	①臨床実習 ワークホーム高砂 ②臨床実習 あかりの家 (引継ぎ→ランニング→プラグ班、軽作業班、さわり班)	休憩	臨床実習 あかりの家(体操活動)		講義3「自閉症の人たちの地域生活支援」地域支援センターあいあむ		まとめ意見交換	
4日目(木)	②臨床実習 ワークホーム高砂 ①臨床実習 あかりの家(プラグ班、軽作業班、割箸班)	休憩	臨床実習 あかりの家(トモニ活動)		講義4「発達障害者支援センターの取り組み」発達障害者支援センタークローバー		受講者間のフリースペース	
最終日(金)	臨床実習 あかりの家 (引き継ぎ→ランニング) 臨床実習 児童デイサービス あかりの家	休憩	閉講式・まとめ意見交換					

(2) 学生(実質実習日)、施設職員、学校先生等・・・ 14件、49人、延202日)

介護等体験(教職員免許必修実習)	0件	0人	延 0日
社会福祉実習(社会福祉士受験資格)	0件	0人	延 0日
保育実習	4件	7人	延 70日
現任訓練(特別支援学校先生)	3件	13人	延 26日
体験ボランティア実習(関西福祉大学2年生)	4件	13人	延 26日
発達障害支援スーパーバイザー養成研修・実務研修受入(上記(1)再掲)	3件	16人	延 80日

(3) 児童・生徒

体験実習(特別支援学校)	1件	1人	延 4日
--------------	----	----	------

10 就労体験支援

クローバーに相談に来られている、引きこもりがちの方に、事例研究会冊子の印刷製本に、アルバイトとして2人、各1日お手伝いを願う。(昨年度引き続き3回目、延4人)

11 福祉避難所・・・高砂市福祉避難所の指定に関する協定('14(H.2).11) 本年度利用無し

IX 個別支援計画・施設サービス評価・苦情解決

1 個別支援計画 45人の「個別支援計画」(前期、後期)作成。(保護者との懇談を7/2に実施)

2 施設サービス評価 7月に、尾崎課長補佐が、「自閉症者施設サービス評価基準」を自己評価し、全日本自閉症支援者協会・発達障害支援スーパーバイザー養成研修事務局(めぶき園)に提出

3 サービス苦情解決(障害者支援施設、短期入所事業)

期末休み明けに「休み中の生活の様子」を聞き取る。その際「あかりの家への要望等」の項目を設定し、毎期末休み明けに要望を聞き取っている。今年度4件の「あかりの家への要望等」を取り上げる。

<受付事例>

支援に関する内容(療育支援に関すること・健康に関すること・生活に関すること・長期休みの短縮希望など)

苦情受付担当者	亀山 隆幸 (サービス管理責任者)
苦情解決責任者	三原 憲二(あかりの家施設長)
第三者委員	富士原一成(前 高砂市社協理事長) 高尾 剛一(元高砂市福祉部次長、あかりの家前監事)

X リスクマネジメント・防災・安全・衛生

1 リスクマネジメント

怪我、投薬ミス、物品破損、車キズ等については、「事故等報告書」提出を義務付け。

16年度は56件提出(15年度は、57件。14年度は62件、13年度は113件)。

怪我15件(利用者:骨折1件、その他、すり傷、あざ、打撲等。職員:骨折2件)、破損16件(ガラス破損3件、フォークリフトで倉庫破損1件、エアコンリモコン1件、その他食器他)

その他の15件では、公用車事故2件、近隣からのクレーム2件(電柱のツタ狩りの要望、公用車の盗難ブザー誤作動1件)、食事の異物混入2件、作業時の薬品等を舐める2件等であった。

投薬に関するミスがピークの12年度では31件あり、①投薬業務に臨む覚悟の確認、②投薬業務に専念できる環境づくり、③ミスを生じにくい予防策を組込む等、根本的な見直しを行った結果、13年度20件、14年度17件、15年度は16件、16年度は12件と大幅に減っていった。

16年度のミス16件の傾向は、①特定利用者に対して、最後まで薬を飲み込んだか未確認(3件)、②投薬時、錠剤を全てタブレットから外したか、袋内の薬を全て飲み終えたか未確認(3件)という基本事項があげられた。ミスの時期は、フローア異動があつて間もない4~6月が7件と約6割を占めた。

2 防災

(1)防災訓練

①訓練内容(上記①②含む)

- a 避難訓練 3/13 3/16
- b 通報訓練 3/13 3/16の2回実施
- c 消火訓練 3/13 3/16の2回実施

②新任レクチャー(4月に実施)

・火災時の対応・避難訓練の説明・消火器、散水栓の取り扱い方などを説明

※今年度は高砂消防本部を要請しての避難訓練は実施なし

(2)消防自主点検 月2回程度実施(厨房はガス元栓の最終点検を毎日実施)

(3)消防計画変更なし

(4)高砂消防本部査察 9月13日、3月22日(愛媛県G. Hの火災が合った件で)特に指摘なし

(5)業者委託点検等

- a 消防用設備等(スプリンクラー設備、非常動力設備、自動火災報知設備、消防機関に通報する火災報知設備、誘導灯及び誘導標識、消火器具) 年2回(4、10月)点検
内、10月分を「消防用設備等(特殊消防用設備等)点検結果報告書」として高砂市消防本部へ届出
- b 特殊建築物等定期調査(今年度は無し)

(6)電気設備の安全調査(加古川地区電気安全調査センター) 4/8 「良好」

(7)LPガス設備保安点検((有)保安センター東播) 1/10 「良好」

3 交通安全

(1)車両管理:担当者により点検

(2)無事故・無違反運動「チャレンジ100」(10/1~1/8)(県全運転管理者部会等共催)に7年連続7回目の参加。これまで法人レベルで毎年1チームを編成し参加していたが、今年度初めて5チーム(1チーム10人、計50人参加)編成。今回は3チームが無事故・無違反を達成し、表彰を受ける。

(1チーム時代6回中5年無事故無違反、今回含めて延11チーム中8チーム無事故無違反達成)

(3)5/17 安全運転管理者等講習会 足立事務員(補)出席

4 衛生

(1)厨房関係

①加古川健康福祉事務所立ち入り検査(ATPふきとり、使用水の残留塩素濃度等)→(今年度はなし)

②厨房内害虫(ゴキブリ、ねずみ)駆除 毎月業者にて実施

③検便(調理員) 年12回(毎月)実施

④衛生点検表再検討からの追加項目

⑤ 東洋産業害虫駆除 12回 1/月回 3回消毒

(2)貯水槽清掃 8月13日業者にて実施

(3)合併処理浄化槽関係

①合併処理浄化槽業者点検 年24回(毎月2回)実施

②10/5(社)兵庫県水質保全センター検査 「おおむね適正」(清掃実施しているが記録が確認できず)

XI 総務関係

1 職員の採用・退職(あかりの家)

- (1)正規職員 採用3人 4/1支援員(女3)
退職4人 3/31 支援員(男1、女3)
異動 支援員(男1、女2) あかりの家→児童デイ
あかりの家→GH.WH 高砂
児童デイ→あかりの家
- (2)嘱託職員 採用2人 3/14 支援員(男2)
- (3)パート職員 なし

2 求人活動(法人)

(1)H29年度新卒支援員求人 (6名内定通知、4名辞退)

① 兵庫県福祉人材センター

6/19「28年度第1回 福祉の就職総合フェア」

12人面談(内、男6人、女6人 / 卒業予定者12人(21・22歳11人、30歳1人))

3/7「28年度第2回 福祉の就職総合フェア」

11人面談(内、男0人、女11人 / 現3年生10人、卒業予定者1人(20～22歳11人))

②ホームページに求人広告

③インターネット求人サイト「リクナビ」を活用 (H16.3.1アップ)

<法人説明会&見学会>

第1回(あかりの家交流ホーム) 3/28 13時30分から(参加者4人→受験者3人)

第2回(あかりの家交流ホーム) 4/5 13時30分から(参加者1人→受験者1人)

第3回(あかりの家交流ホーム) 5/9 13時30分から(参加者3人 → 受験者2人)

第4回(あかりの家交流ホーム) 6/28 13時30分から(参加者2人 → 受験者無)

第5回(あかりの家交流ホーム) 7/5 13時30分から(参加者1人→受験者無)

<採用試験>

第1回 3/28(受験者 2人→採用 2人、辞退 1人)

第2回 5/7 (受験者 1人→採用 1人、辞退 1人)

第3回 5/9(受験者 3人 → 採用 3人、辞退 2人)

④実習生

あかりの家/WH 高砂へ実習に来た学生を内定1名、→ 辞退(1名)

(2)H30年度新卒支援求人

①ホームページに求人広告

②インターネット求人サイト「リクナビ」を活用 (H17.3.1 アップ)

法人説明会(あかりの家交流ホーム)

第1回 3/17 (参加者1名) 第2回 4/7 10:30～(参加者3人) 第3回 4/7 13:30～(参加者1人)

3 職員構成 (あかりの家) (‘17. 3. 31現在)

		施設長	副施設長	支援員	看護師	事務員	栄養士	調理員	計
常勤職員 現員	男	1	1	17					19
	女			15	1	1	3	2	22
	計	1	1	32	1	1	3	2	41
非常勤				4 (4)		2 (2)			6 (6)
計		1	1	36 (4)	1	3 (2)	3	2	47 (6)

※ あかりの家総職員数は、児童デイ支援員を含めて51名。内、非常勤職員は6人で内書。
副施設長のうちWH施設長は兼務のためカウントせず。

4 職員年齢構成 (‘17. 3. 31現在)

		20代	30代	40代	50代	60代	70代	計	総計
常勤	男	5	9	5	1	1		21	45
	女	13	6	1	3	1		24	
非常勤			1 (1)	3 (3)	2 (2)			6 (6)	6 (6)
総計		18	16(1)	9 (3)	6 (2)	2		51 (6)	49 (6)

※常勤職員平均年齢35.6歳、常勤生活支援員平均年齢32.3歳、常勤職員平均勤続年数7.9年

5 資格取得の状況 (常勤職員：延人員)

サービス管理責任者(4)、社会福祉士(6)、精神保健福祉士(1)、介護福祉士(1)、介護支援専門員(1)、知的障害援助専門員(2)、保育士(8)、教員(7)、幼稚園(4)、相談支援援助実習指導者(1)、臨床心理士(1)、認定心理士(1)、准看護師(1)、管理栄養士(1)、栄養士(3)、調理師(3)、防火管理者(5)、社会保険労務士(1)

6 表彰

(1) 法人からの家表彰(2011年4月「表彰規程」施行)

10年勤続	眞鍋 美香
功績	齋藤 克己(法人功績理事長賞)、岸本 好正(優秀実践賞)、山口 秀人(優秀実践賞)

(2) 外部機関・団体からの表彰

- ①兵庫県知的障害者施設協会 永年勤続(15年勤務) 藤田 照代
- ②無事故・無違反運動「チャレンジ100」達成表彰(県全運転管理者部会等共催)
5チーム・50人参加、内 3チーム達成・表彰

7 衛生委員会(2016.9.1発足)

委員会：毎月1回開催(年12回実施)

委員：統括管理者(三原) 産業医(井野) 衛生管理者(藤原) 看護師(藤田) 支援員(眞鍋)

主な議題：職員の健康診断について、感染症対策について、作業環境について等

8 購入、工事、修繕、寄付物品等(10万円以上)

6月	エアコン<交流ホーム1F研修室、キッチン室>(オカノデンソー)	85万円
8月	浄化槽放流槽内壁・コンクリート打設工事(株日産設備)	11.8万円
8月	軽作業棟シャッター修理(河田建設)	17.2万円
8月	プラグ班作業室サッシ取替工事(河田建設株)	14.5万円
2月	エアコン<交流ホーム2F図書室>(オカノデンソー)	13.5万円
3月	軽自動車ムーヴ<医務用>(高砂トヨタ自動車サービス)	50.3万円
3月	ほのぼの財務ソフト(リコージャパン株)	44.8万円

<本部会計>

30周年記念式典、祝賀会(11/4) 寄付金 19名 134万円

<児童デイ会計>

寄附物品 神戸製鋼高砂製作所(3/16) おもちゃ、デジタルカメラ当25万円相当の品

年度特記事項

- 1 「行動援護従業者養成研修」(姫路心身障害市民懇話会主催) あかりの家に委託2年目
法人全体で取り組む(法人内7人+天野真砂園施設長で講師陣構成 6月、3日実施)
- 2 発達障害支援スーパーバイザー養成研修・実務研修受け入れ3年目
- 3 事例研究会研究誌の製本、クローバー利用で閉じこもりがちの方に、アルバイト依頼。(昨年度に引き続き3回目)
- 4 関西福祉大学谷口先生より、体験ボランティア実習を特に依頼され2年生を3グループ(実際には4回)に分け、13人、延26日受け入れる。
- 5 労働紛争発生
- 6 加古川労働基準監督署入る

2016 (H.28) 年度

障害児通所支援 児童デイサービスあかりの家 事業報告書

2017. 3. 31 現在

1 事業総括 (平成 24 年 1 月 1 日認可)

あかりの家だからこそできる療育の確立を目指して、基本的には、一人ひとりの児童の特性に応じた個別セッション方式 (2 時間を基本設定) による丁寧な療育に努めようとしてきた。しかし、年々利用ニーズは膨らみ、一昨年度から量として、個別セッションの療育に限界を感じるようになっていった経緯がある。とは言え、その課題に“あかりの家”として応えなければならない。5 年目になる今年度、形態を変えながら見えてきた形が、

中高校生を対象とした作業設定 (小集団) 小学生を対象にした自立設定 (小集団)

重度・急性期児童に対する個別対応

の 3 つの枠組み。

個別性を見定め、その児童の今、将来を繋げるために何が必要なのかを保護者さんと検討をし、必要な支援をどの位置づけで作っていくのかということを慎重に考えるようにしてきた。

2 事業内容

《事業の経過》

平成 24 年 1 月 1 日	「児童デイサービスあかりの家」(県民局指定) として事業開始 指定障害福祉サービス事業者 (障害者自立支援法) として指定 (東播磨県民局)
平成 24 年 4 月 1 日	改正児童福祉法により指定障害児通所支援事業者のみなし指定 (県障害者支援課長) 支援の種類 (児童発達支援、放課後等デイサービス)
平成 25 年 4 月 1 日	「児童福祉法第 21 条の 5 の 1 5 第 1 項の規定により (略) 同法第 21 条の 5 の 3 第 1 項の指定障害児通所支援事業所として (略) 指定」(県指定) 児童発達支援 (10 名) 放課後等デイサービス (10 名) *事業全体での定員 10 名
平成 26 年 9 月 1 日	保育所等訪問支援事業開始 (県指定)

“児童発達支援事業”、“放課後等デイサービス事業”、“保育所等訪問支援事業”の 3 つの事業を行っている。3 つの事業は、サービス管理責任者 1 名、専任職員 3 名で担当。

①直接支援

児童発達支援	9:30~11:00、12:30~14:00 の 2 部構成 (個別セッション)
放課後等デイサービス	学校等が終わってから 17:00 まで (目安として 15:00~17:00)

②間接支援

訪問療育・外来相談	地域の相談支援事業所や学校、幼稚園、保育園からの要請が増えている。
保育所等訪問支援事業	ニーズが増え始め、関係機関を巻き込みながら展開している。

3 利用契約者の状況

(1) 利用定員と利用契約者数 (平成 29 年 3 月 31 日現在) (単位: 名)

利用定員: 1 日あたり	利用契約者数	内 自閉症スペクトラム
児童発達・放デイ: 10 名	40 名 (児童発達: 9、放課後: 31)	37 名 (93%)
保育所等訪問	12 名	—

(2) 所属《平成 29 年 3 月 31 日現在》 (単位: 名)

	所属なし	幼稚園・保育園	小学校		中学校		計
			普通校	特別支援	普通校	特別支援	
男	0	9	10	1	0	14	34
女	0	0	1	2	1	2	6
計	0	9	11	3	1	16	40

(3) 利用者出身地別、男女別、知的障害程度別〈3月31日現在〉 (単位：名)

出身地	男	女	重度	中度	軽度	不明・未診断	計
高砂	19	2	4	6	6	5	21
加古川	7	1	5	1	1	1	8
姫路	6	2	5	3			8
播磨・稲美	2	1		1	2		3
計	34	6	14	11	9	6	40

※知的障害の程度は、「療育手帳」の判定による

4 事業実績 (平成29年3月現在)

① 契約児童数 (単位：名)

児童発達支援	9
放課後等デイ	31
保育所訪問	12

未契約 (申請中) 含

② 曜日利用数 (単位：名)

	月	火	水	木	金
児童発達支援	2	0	2	3	4
放課後等デイ	8	6	8	7	7
計	10	6	10	10	11

*毎週利用でない児童含 (最大)

③活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
《利用状況》 (単位：名)													
自発・放デイ (件数)	155 (-3)	161 (+2)	185 (+8)	177 (-27)	163 (+10)	169 (-4)	148 (-37)	161 (-7)	145 (-14)	158 (-21)	165 (-9)	157 (-23)	1949 (-125)
保育所 訪問	17	16	14	12	3	12	12	5	4	3	5	11	114 (+70)
推移 (入/出)	4 / 1	2 / 0	2 / 1	0 / 0	0 / 0	1 / 1	1 / 0	1 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 3	11 / 6
《相談・訪問支援》 (単位：件)													
相談 所内	2	13	9	4	0	20	8	0	0	18	12	0	86
相談 家庭	1	3	3	1	0	3	2	0	0	3	3	0	22
施設支援	5	5	4	5	4	2	2	2	3	4	5	3	44
支援会議	1	2	3	1	2	1	0	3	1	3	6	2	25

④その他

◎研修講師：i) 4月10日 姫路心障懇研修会

基調講演『強度行動障害 青年期を迎えた方々の現状と課題』

パネルディスカッション『児童デイサービスあかりの家の取り組み』

ii) 8月23日 高砂市就学前教育研修会

『児童デイサービスあかりの家がお手伝いできること

～ちょっと気になる子への共同支援～』

iii) 11月18日 社会福祉法人明桜会 サポートセンター翔 法人内研修会

『面白味を学ぶ』*行動障害の理解・支援

◎支援助言：様子、発達が気になる子についての相談、支援助言、直接支援

*定期訪問、電話、メール等での相談

i) 正蓮寺こども園 (1回/月)

ii) さいしゅうじこども園 (1回/月) *いずれも高砂市

◎個別療育 (定期外来、定期訪問)：4名

2016 (H. 28) 年 度

地域支援センター あいあむ 事業報告書

2017. 3. 31 現在

‘2016 (H. 28) 年度 地域支援センター あいあむ 実施事業

	事業名	事業開始年月日	
1	東播磨臨海地域における相談支援機能強化事業	’ 06 (H. 18). 5. 22	2市2町委託事業
2	障害児相談支援事業	’ 12 (H. 24). 4. 1	高砂市指定
3	計画相談支援事業	’ 12 (H. 24). 4. 1	高砂市指定
4	指定一般相談支援事業所(地域移行・地域定着)	’ 13 (H. 25). 4. 1	県指定
5	障害者等相談支援コーディネート事業	’ 07 (H. 19). 10. 1	県委託事業
6	高砂市障がい者自立支援協議会運営等事業	’ 13 (H. 25). 6. 1	高砂市委託事業

地域支援センターあいあむは、入所施設で培った自閉症療育等の専門性等を“地域に返していく”という方針のもと、ご本人・ご家族が地域で安心して暮らすことが出来るように「相談支援」・「地域づくり・人材育成」の2本柱を中心に、6つの事業を展開し東播磨における地域支援の拠点を目指して活動を行っている。

事業の中心である「計画相談」については本格実施から5年が経過し、高砂市でも児・者共に100%を達成し、新規利用者の件数は落ち着き「量から質へ」を合言葉に丁寧な支援を心がけた。一方で総数467名にまで伸びた件数からも、一人一人へ対応できる時間の制約も発生し、その課題も浮き彫りとなった。とは言え8名の相談支援専門員と補助員の力で何とか乗り切ることができた。

また、「相談支援機能強化事業」の相談は、前年度より総数では200件の減少となっている。これは一昨年度の403件減少と合わせると603件の減少となっている。しかし、実人数はで昨年から3名、一昨年度から23名減少しているだけであり、計画相談では対応できない専門的かつ単発で多様な相談を「機能強化事業」が受けていることが更に明確になった。

自立支援協議会については、例年通り3市2町の各市町へ相談員等が多くの場面で出席を行った。また、高砂市障がい者自立支援協議会の事務局委託も受けており、ホームページの管理・更新と同時に協議会の進行、準備に関する中核的役割を担うことで、圏域コーディネーター事業を合わせて地域づくりの一翼を担っている。

I 実施事業

1 東播磨臨海地域相談支援事業（2市2町相談支援事業）

・06年5月22日から、加古川市・高砂・播磨町・稲美町より委託を受け事業開始

		加古川市	高砂市	播磨町	稲美町	計
		43件 (23人)	46件 (39人)	27件 (23人)	25件 (13人)	141件 (98人)
相談形態	訪問	0件	6件	6件	0件	12件
	来所	23件	37件	12件	16件	85件
	同行訪問	0件	0件	0件	0件	0件
	電話	17件	3件	1件	6件	26件
	メール	0件	0件	0件	0件	0件
	ケア会議	0件	0件	0件	0件	0件
	関係機関	3件	0件	0件	2件	5件
	その他	0件	0件	8件	1件	9件

- ・週5日。市町庁舎や社協内で2時間窓口相談実施
- ・各6時間で契約。窓口相談時間外の4時間は「施設待機」時間帯とし訪問・外来相談を実施。

2 障害児相談支援事業

06年10月1日より事業開始(県指定) その後、制度改正により12年4月1日から高砂市指定により事業開始

計画作成者 112名 (高砂市55名 加古川市51名 播磨町2名 姫路市2名 稲美町1名 岡山市1名)

3 計画相談支援事業

06年10月1日より事業開始(県指定) その後、制度改正により12年4月1日から高砂市指定により事業開始

計画作成者 **354名**

(高砂市171名 加古川市102名 播磨町16名 稲美町33名 明石市2名 姫路市13名
神戸市8名 小野市2名 福崎市1名 豊岡市1名 名古屋市1名 尼崎市2名 生駒市1名 大津市1名)

4 指定一般相談支援事業所

(12年4月1日より県の指定により事業開始)

- (1) 地域移行支援 **実施者 1名** (高砂市1名)
(2) 地域定着支援 **実施者 4名** (加古川市3名、高砂市1名)

5 障害者等相談支援コーディネート事業 (県新規事業としてH19. 10. 1あかりの家に委託)

(1) 市町相談支援事業への後方支援 (困難事例等への対応・助言・情報提供など)

区 分		相談・指導等の方法			合 計
		相談支援ケースへの対応等	相談支援体制等の構築・運営	その他	
相談関係	① 定相談支援事業所従事者	150	217	53	420
	② 町職員（障害福祉担当課に限る）	34	14	11	59
	③ 記以外の障害者の相談支援関係者	15	10	5	30
④ 保健・福祉関係者（市町職員含む）		18	12	17	47
⑤ 教育関係者（市町職員含む）		18	21	31	70
⑥ 就労関係者（ハローワーク等行政関係者）		0	0	0	0
⑦ 企業等		0	1	3	4
⑧ 障害福祉サービス事業者等		18	21	45	84
⑨ その他（ケース会議、刑務所職員など）		42	7	39	88
⑩ 障害者本人		4	5	4	13
⑪ 障害者の家族等		4	5	3	9
合 計		300	313	210	824

(注) 件数・・・助言・指導の対応回数を記載

(2) 研修会の開催

開催日時・講演会名	開催場所	内 容	参加者数
7/22 チーム支援ネット第1回 全体研修会	地域連携 交流施設	講演『私は何をする人だろう ～自分の仕事を見つめなおして明日からの力へ～』 講師：NPO 法人シムズシーズ 柏木輝恵 氏	31名、 相談支援事業所、 教育、保健、他
10/21 チーム支援ネット第2回 全体研修会	加古川総合庁舎 2階 会議室	講演『精神障害者の特性と個別性に適応した生活支援』 講師：日本福祉大学福祉経営学部教授 青木 聖久 氏	51名、 相談支援事業所、 教育、保健、他
1/27 チーム支援ネット第3回 全体研修会	加古川総合庁舎 3階 機能訓練室	「自分のコミュニケーションを変えたいと思っているあなたへ 『お互いを尊重するコミュニケーション＝アサーション』を知る ことからはじめませんか？」 講師：オフィス今岡 今岡 まゆみ 氏	21名、 相談支援事業所、 ご家族、他
2/17 チーム支援ネット第4回 全体研修会	加古川総合庁舎 3階 機能訓練室	医療型障害児入所施設および療養介護施設『ルルド館』について 講師：姫路聖マリア病院 小児科 重度障害総合支援センター開設準備室 宮田広善 先生	57名、 相談支援事業所、 行政、教育、保健 他

(3) 圏域内及び圏域間の相談支援関係機関、療育係機関の連携のための業務

- ① 県関係機関、市町、医療機関、就労機関、特別支援学校、施設、事業所などの連携
- ② 就業・生活支援センター、加古川市立就労支援センターとの連携
- ③ 現存する各種団体・ネットワーク会議 (就労関係・地域生活・相談事業 権利擁護) に参加
- ④ 3市2町及び圏域における地域自立支援協議会 (準備会含む) への参加 (年間73回)
- ⑤ 東播磨相談事業者チーム支援ネットの運営 (研修会、連絡会)

6 高砂市障がい者自立支援協議会運営等事業（高砂市新規事業として13. 6. 1あかりの家に委託）

（1）会議活動回数

- ①全体会1回 ②運営会議2回 ③相談支援専門員による地域課題抽出の会2回 ④こども部会5回 ⑤事業所ワーキング3回 ⑥くらし部会5回 ⑦防災ワーキング5回 ⑧防災手帳書き方講座3回 ⑨事務局会議20回 研修会2回 **計 46回**

※各会議における案内文の送付、議題表・名簿作成、資料作成、議事録作成、調整、会議の進行など

（全体会は除く）

（2）高砂市福祉マップ 障害者編 更新作業

（3）ヘルプマーク周知用ポスターリーフレット作成および普及活動

（4）ホームページ管理・更新等

① ホームページチラシ作製

② ホームページ掲載 **計 54件**

各種会議報告 25件（部会10件、全体会・運営会議報告等4件、ワーキング報告11件

松の助訪問記 1件

松の助ブログ 2件

イベント開催のお知らせ 15件

その他自立支援協議会より 11件

高砂市について 1件

防災手帳書き方講座窓口設置

③ メールマガジン発行 **6件/年**

※参考 ホームページ閲覧数 101,047件/年>

Ⅱ 職員研修

1 職員研修内容

月	研修内容	研修地	参加者
5	重度障害支援ネットはりま研修 書写養護学校	姫路市	春名
6	○一般社団法人 兵庫県相談支援ネットワーク平成28年度定期総会 ○『重症心身障害児とともに 生きる暮らすを考えよう』フォーラム in 東播磨 ○発達障害のある子どもの支援者ミーティングVol5 ○加古川養護学校 PTA研修 西宮における居宅介護の実践	西宮市 加古川 播磨町 加古川	石井 濱口、川崎、石井、 松原、金鹿、梶原、春名 川崎、松原 川崎、松原、手納、梶原
7	○チーム支援ネット研修会『私は何をする人だろう ～自分の仕事を見つめなおして明日からの力へ～』 ○播磨町地域自立支援協議会『お金について勉強しましょう』 ○播磨町地域自立支援協議会 全体研修会 『暮らしやすさのために私ができること』講師：又村あおい氏	播磨町 播磨町 播磨町	濱口、川崎、石井、松原、 梶原、春名、手納 春名 濱口、金鹿
8	○就労移行支援事業所アシストワンかこがわ、総合相談支援センター アシストワン セミナー『親亡き後の支援』講師：美藤早苗氏	加古川	川崎、梶原、手納
10	○東播磨臨海精神保健 地域交流会 ○チーム支援ネット研修会『精神障害者の特性と個性に適切な生活支援』講師 青木聖久氏（日本福祉大学福祉経営学部教授）	加古川 加古川	川崎、石井、松原、梶原 濱口、川崎、松原、 梶原、春名、石井
11	○東播磨圏域相談支援フォローアップ研修 玉木氏	加古川	濱口、川崎、石井、松原、春名、 梶原、手納
12	○高砂市自立支援協議会くらし部会防災研修会「障がいのある方の災害時支援を考える～阪神淡路大震災・熊本地震等から～」 ○はぐるまの家研修会 ○兵庫県 相談支援をつなぐ研修 ○あかりの家 30周年記念講演会	高砂市 加古川 加古川 高砂市	濱口、川崎、石井、春名、金鹿、 梶原、藤原 濱口、川崎、松原 手納 川崎、石井、松原、金鹿 梶原

1	○播磨町自立支援協議会 防災力アップ研修 ○あかりの家公開講座 ○高砂市自立支援協議会 虐待防止研修会 「アートを通じた自己表現～アトリエコーナスの軌跡～」 ○チーム支援ネット研修会 自分のコミュニケーションを変えたいと思っているあなたへ	播磨町 明石市 高砂市 加古川	濱口、川崎、春名 川崎、石井、松原 濱口、川崎、石井、松原、梶原、 春名、手納、金鹿 濱口、川崎、石井、松原、梶原、 春名、手納、金鹿、
2	加古川養護学校 PTA 研修会 姫路聖マリア病院 宮田広善氏 加古川市自立支援協議会 防災勉強会	加古川 加古川	川崎、松原 石井

Ⅲ 実習受入

(1) 学生、施設職員等

発達障害支援スーパーバイザー養成研修・実務研修受入	3件	14人	3日
	3件	14人	延べ 3日

Ⅳ 関係団体等への役員や職員派遣等

県立東はりま特別支援学校 学校評議員会	学校評議員	13. 6～	濱口
一般社団法人 兵庫県相談支援ネットワーク	副代表理事	13. 11～	濱口
東播磨相談事業者チーム支援ネットワーク	主宰者、構成員	08. 5～	濱口、川崎、石井、 松原、金鹿、梶原、 春名、藤原妙、富木 手納
加古川雇用（連絡）調整会	委員	07. 11～	濱口
西宮市障害者介護給付費審査会	委員	14. 9～	濱口
兵庫県合理的配慮アドバイザー	委嘱	16. 5～	濱口

Ⅴ 地域自立支援協議会への役員や職員派遣等

兵庫県	自立支援協議会	相談支援部会オブザーバー	08. 8～	濱口
		相談支援部会オブザーバー	10. 5～	濱口
東播磨圏域	自立支援協議会	委員	09. 12～	濱口
明石市	地域自立支援協議会	運営会議 メンバー	13. 12～	濱口
		就労部会委員、	10. 4～	濱口
加古川市	障害者自立支援協議会	全体会 委員	09. 12～	濱口
		くらし・こども部会	10. 5～	濱口、石井
		しごと部会委員		濱口、松原
播磨町	地域自立支援協議会	推進会議 オブザーバー	10. 6～	濱口
		くらす部会委員/オブザーバー	10. 7～	春名 / 濱口
		はたらく部会/オブザーバー	10. 9～	春名/濱口
稲美町	地域自立支援協議会	全体会オブザーバー	11. 4～	濱口
		運営会議 メンバー	11. 4～	濱口
		防災ワーキング		川崎
高砂市	障がい者自立支援協議会	全体会構成員/ オブザーバー	08. 2～	坊垣/ 濱口
		くらし部会委員/オブザーバー	12. 4～	坊垣/ 濱口、
		こども部会委員/オブザーバー	12. 5～	梶原 / 濱口
		防災ワーキング/オブザーバー	16. 6～	春名、梶原/濱口

VI 講師、発表、寄稿等

兵庫県	相談支援従事者初任者研修	合同講義 7 / 15、集合講義 8 / 26 演習 9 / 8・9、9 / 20・21、10 / 6・7	講師 パネラー 司会他	濱口
	相談支援従事者現任研修	2 / 8・9・10		
	東播磨圏域フォローアップ研修	11 / 30		
	つなぐ研修	12 / 10、12 / 26、1 / 19、2 / 1		
	サビ管ブラッシュアップ研修	1 / 18		
西宮市	相談支援従事者初任者研修	6 / 17	講師	濱口
兵庫県自閉症協会 加古川高砂ブロック総会 「成年後見制度について」		4 / 26	講師	濱口
兵庫大学 保育学科 3年 実習前研修「障害児福祉と記録」		5 / 12	講師	濱口
ゆうかり園 保護者会 「災害時に私たちにできること」		5 / 20	講師	濱口
まごころケア研究センター職員研修 「障害者支援の現状について」		6 / 14	講師	濱口
高砂市肢体不自由児父母の会 研修会 「差別解消法について」		7 / 8	講師	濱口
東はりま特別支援学校 進路研修 「福祉サービスの利用について」		7 / 13	講師	濱口
高砂市 地域福祉リーダー養成講座「身近な福祉の相談役として」		7 / 29	講師	濱口
近畿地区特別支援学校肢体不自由教育研究会夏季研修会 実技講座 7「福祉と医療との連携」		8 / 18	コーディネーター	濱口
高砂市人権教育研修 「ちょっと気になる子がいるんですけど・・・」		8 / 23	講師	濱口
兵庫県てをつなぐ育成会 地域生活援助者養成講座「支援の基本」		9 / 7	講師	濱口
加古川市家庭教育学級 研修会「グループホームについて」		9 / 9	講師	濱口
のじぎくの里 職員研修会 「みんなで考える虐待防止への道」		9 / 16	講師	濱口
高砂市民生委員研修会「障害者差別解消法について」		9 / 26	講師	濱口
にこちゃんクラブ「学童期の教育と就労について」		9 / 28	講師	濱口
兵庫県知的障害教育教頭会 研修会「障害福祉サービスの現状と課題」		9 / 30	講師	濱口
県社協 専門員・担当者研修 現任生活支援員研修会「知的・精神障がい者の理解と計画相談支援について」		10 / 14	講師	濱口
加古川市立加古川公民館 家庭教育学級「こぼと」 座談会悩み事相談		10 / 26	講師	川崎
但馬圏域相談支援フォローアップ研修会「忘れていませんか？大切な何かを」		11 / 1	講師	濱口
平成28年度東播磨ブロック保護者研修会「地域で彩のある生活を送るために」		11 / 4	講師	濱口
ひだまりの会研修会「地域で彩のある生活を送るために」		11 / 15	講師	濱口
稲美町生活支援サポーター研修「障害のある方と地域で共に暮らす」		11 / 22	講師	濱口
ほっとパル研修「そうか！なるほどこうじKNOW」		11 / 26	パネラー	濱口
播磨町権利擁護研修「成年後見落語 パネル」		12 / 1	講師	濱口
野口公民館 家庭教育学級「障害福祉の新しい方向性について」		1 / 20	講師	濱口
兵庫県総合リハビリテーションケア研究大会「私の障介シートを活用した連携」		1 / 21	パネラー	濱口
宝塚市指定特定相談支援事業所研修 「忘れていませんか？大切な何かを」の会		1 / 24	講師	濱口
播磨町教育委員会 就学サポート会議 「つながりは育ちを支える！」		2 / 16	コーディネーター	濱口
第23回 あかりの家 事例研究会 『差別解消法について』高砂市役所研修から		2 / 26	寄稿	濱口
のじぎくの里 職員研修会「みんなで考える虐待防止への道」		3 / 3	講師	濱口
小野起生園等職員研修会「合理的配慮の考え方について」		3 / 15	講師	濱口
なだ障害者支援センター事業所研修「今だからこそ“相談支援”を見つめよう！」		3 / 29	講師	濱口

平成 28 年度 ひょうご発達障害者支援センター 事業報告

平成 29 年 3 月 31 日

平成 28 年度は、発達障害の支援が広がる中、支援機関への支援体制のあり方を検討する一年だった。

I 県レベル的活動

1 重点的取り組みに対する総括

(1) 支援機関への支援の積極的な実施と支援の形作り

これまで、明確な申し込み方法を明記していなかった機関へのコンサルテーション（機関を訪問し、対応助言を行う）を公募した。件数は前年比 150%であった。（H27 181 件→H28 274 件）家庭療育支援講座（ペアレントトレーニング）は H28 年度 5 市で新規実施した。「発達障害のある成人期の就労前段階支援に関するモデル事業」で検討を行ってきたプログラムの普及は、クローバーの中で作成したプログラムをセンター、各ブランチャで実施し、内容の共有を行った。課題として、コンサルテーションの一層の普及と、適切な対応助言に応える職員の専門性の向上が挙げられる。

(2) 養成を行ったサポーターの支援力向上のためのフォロー

H28 年度本講座に合わせて、受講生を対象にしたフォローアップ講座を実施した。内容は、児童期では、特別支援教育の今後の動向について講義を行った。成人期のフォローアップ講座では、当事者の話をプログラムの中に入れ好評だった。課題として、講座を受けて現在の業務に生かされている点や、実際の支援にあたって難しい点の報告、助言というような、より実践に生かしていけるような内容にしていくことと考える。

(3) 医療機関連携をはじめとした発達障害支援機関のネットワーク構築

3 月に医師、医療従事者研修会を実施した。参加者が 241 名で医師も 50 名強の申し込みがあった。また、事例を通しては特定の医療機関との積極的な連携は多くあったが、連携体制を構築するまでには至らなかった。次年度は全県の医療機関支援体制構築の検討を行うとともに、クローバーとして連携体制を作っていきたい。

(4) スタッフの支援技術の向上

センターブランチャ職員の研修会を実施した。事例検討と日々の活動での質問等を行う研修会を実施した。また、ブランチャ会議の中で、日々の相談支援やコンサルテーションについて

2 事業実施状況

(1) 研修(実 8 回 延 14 回、延参加者数 783 人)

() 内は共催機関名 【 】 実施会場

日付	研修会名	内容	参加者数
5.21	発達障害サポーター養成講座	1 日目 講義「こども達の発達を支援するために～小児科医からお願いしたいこと～」 姫路市総合福祉通園センター 医師 小寺澤 敬子氏 講義「アセスメントー子どもの姿」 演習「援助の仕方」 ひょうご発達障害者支援センター 橋本 美恵 ワーク「行動記録シート 困った行動を考える」 ひょうご発達障害者支援センター 職員	38※
6.18	専門コース 児童期	2 日目 講義「子どもの行動の理解と関わり」 演習「疑似体験」 ひょうご発達障害者支援センター 橋本 美恵 ワーク「シートから関わりの工夫と配慮を考える」 センター、ブランチャ職員 個別支援計画策定の説明 センター 職員	
7.16	(兵庫県)	3 日目 講義「児童発達支援事業について(地域での支援とその期待される役割) 児童発達支援事業と保育所幼稚園との連携」	
8.27	【明石市産業交流センター】 【明石市勤労福祉会館】		

			講義「家族支援について～保護者の“わかる”“できる”“やる気になる”を支援する」 厚生労働省 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 発達障害対策専門官 日詰 正文 氏 講義「ペアレントメンター(保護者)の経験談」 ペアレントメンター 助言とディスカッション 助言者 日詰正文 氏 講義「個別支援計画の策定 東はりま特別支援学校 教諭 松井恵子氏 4日目 見学研修 発達障害者支援センター 東はりま特別支援学校 姫路市総合福祉通園センター つくし児童園 県立こども発達支援センター 5日目 講義「幼児期の発達障害のある子どもの理解と支援 ～集団生活と個別のかかわり～」 大阪府立大学 人間社会システム科学研究科・人間社会学部 准教授 里見 恵子 氏 発表「個別支援計画」 東はりま特別支援学校 教諭 松井恵子氏	
8.27	発達障害サポーター 養成講座 成人期 フォローアップ講座 【明石市産業交流センター】		講義「幼児期の発達障害のある子どもの理解と支援 ～集団生活と個別のかかわり～」 大阪府立大学 人間社会システム科学研究科・人間社会学部 准教授 里見 恵子 氏 講義「就労移行支援事業所の取り組み —発達障害のある当事者の方への支援を通して—」 特定非営利活動法人クロスジョブ神戸 松原 崇 氏 講義「当事者の声—就労支援サービスを経た就労—」 発達障害のある当事者の方	24
9.3	家庭療育支援講座研修会 【高砂市ユアアイ 福祉交流センター】		講義「市町の取り組み」 尼崎市 健康増進課 保健師 講義「保護者の体験談」 講義「講座の役割と理論」 奈良教育大学 特別支援教育研究センター 式部 陽子氏 講義「概要説明」 ひょうご発達障害者支援センター 主任相談支援員 橋本 美恵	34
11.5	幼児期支援者研修会 (姫路市 総合福祉通園センター) 【姫路市役所】		基調講演: 『『気になる子』が変わるとき—困難をかかえる子どもの発達と支援」 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 教授 木下 孝司 氏 実践報告: 「子どもの行動の意味から関わりを考える～支援につなげるために～」 ①保育所の取り組み 姫路市立御着保育所 保育士 吉野 睦 氏 ②幼稚園の取り組み 播磨町立蓮池幼稚園 幼稚園教諭 佐藤 良子 氏 まとめと助言 木下 孝司 氏	184
H29 2.2	発達障害 サポーター 養成講座 一般コース (兵庫県)	【兵庫県学校 厚生会館】	講義「発達障害について」 ひょうご発達障害者支援センター センター長 和田康宏 講義「発達凸凹 働くうえでの適応術」 DDAC(NPO 法人 発達障害をもつ大人の会)代表 広野 ゆい氏 講義「発達凸凹のある人の活躍できる職場づくり」 UFJリサーチ&コンサルティング 藤原 崇氏	68
H29 2.11		【ようみうり 神戸ホール】	「分かってほしい発達障害のこと」 和田康宏 「発達障害のある人の就労支援」近畿大学 教職教育部 准教授 向後 礼子 氏	112
H29 1.9 1.26 2.24	発達障害サポーター 養成講座 専門コース 成人期(兵庫県) 【明石市産業交流センター】		1 日目 講義「発達障害と精神疾患—鑑別の困難さと対応—」 揖保川病院 副院長 中井 祥博 氏	41※

		講義「発達障害の心理アセスメントー心理検査を用いてー」 路地裏発達支援オフィス 代表 糸井 岳史 氏	
		2 日目 講義「成人期の支援と状況」 ひょうご発達障害者支援センター 和田 康宏 講義「就労支援ー相談、評価、ジョブマッチング、定着支援についてー」 兵庫障害者職業センター 主任障害者職業カウンセラー 新谷 正樹 氏 演習「アセスメントのためのフォーマットの練習」 ひょうご発達障害者支援センター 相談支援員 山内 雅樹 講義 演習「支援方法 ストレスマネジメント」、「支援方法 問題解決」 「支援方法 対人スキル支援」 兵庫教育大学 特別支援教育専攻・障害科学コース 教授 井澤 信三 氏	
		3 日目 兵庫障害者職業センター、社会福祉法人 すいせい、高岡病院 ひょうご発達障害者支援センター（センター、ランチ）	
		4 日目 講義「グループワークの進め方」、グループワーク「5分レポートの演習」 講義「ケース検討会議の進め方」、グループワーク「ケース検討会議の演習」 講評・質疑応答・意見交換 大正大学 心理社会学部 臨床心理学科教授 近藤 直司 氏	
H29 1.9	発達障害サポーター 養成講座 児童期 フォローアップ講座 【明石市産業交流センター】	講義 「発達障害と精神疾患ー鑑別の困難さと対応ー」 揖保川病院 副院長 中井 祥博 氏 講義「発達障害の子供の就学・進学に向けて知っていくべきこと ～合理的配慮等の最新情報を中心に～」 文部科学省初等中等教育局 特別支援教育課 特別支援教育調査官 田中 裕一氏	41
H29. 3.25	医師・医療従事者研修会 【兵庫県医師会館 ホール】	基調講演 「発達障害のある人たちへの医療的アプローチ」 県立光風病院 院長 田中 究 先生 講義「家庭療育支援講座（ペアレントトレーニング）の取り組みについて」 ひょうご発達障害者支援センター 講義 「県立こども発達支援センターの取り組みについて」 県立こども発達支援センター 講義 「兵庫県発達障害施策について」 兵庫県障害福祉課	241

※全日程修了者（補講での受講も含む）、見学研修受講者も含む

(2) 講師派遣（県レベル機関の研修会、就労支援に関する講師派遣など）

（延 43 件 延参加者数 1,470 人）

【労働】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
7.19	兵庫労働局 ハローワーク職員研修 発達障害に関わる職員研修会 (障害に受容がない場合)「障害理解 開示 非開示について」	45	和田	神戸
8.25	小西酒造「アスペルガー症候群の疑いのある人への支援の方法」	1	和田	阪神北
12.5	兵庫障害者職業センター 職員研修「攻撃性や怒りのコントロールに 課題のある発達障害者への支援」	25	和田	神戸
H29.1.23	兵庫労働局 ハローワーク職員研修 発達障害に係る職員研修(障害 に受容がある場合)「発達障害のある人への支援」	22	和田	県外

【福祉】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
5.28	えんじえる会研修「発達障害の理解と支援」	25	和田	阪神南
7.3	兵庫県臨床心理士会研修会「おとなの発達障害」	276	和田	神戸
7.7	ひょうごの風紀を守る会 研修会「発達障害の理解と支援」	45	和田	神戸
7.17	しんしょうこんけアステーション行動援護従事者研修会「行動の背景を考える」	10	和田	中播磨
7.31	発達障害 SV 研修発達障害の支援の現状」	95	和田	県外
9.8	発達障害SV養成研修「兵庫発達障害者支援センターの取り組み」	5	和田	中播磨
10.6	発達障害 S V 養成研修 「兵庫発達障害者支援センターの取り組み」	6	和田	東播磨
10.21	ワークみくら「自閉症・発達障害のある人への支援・行動障害の見られる方への支援」	20	和田	神戸
11.12	中央こども家庭センター 「家族への支援～子ども理解と家族のかかわり」	68	橋本	東播磨
12.13	発達障害 S V 養成研修 「兵庫発達障害者支援センターの取り組み」	5	和田	東播磨
11.1	姫路こころの事業団「発達障害の理解」	15	和田	中播磨
11.22	赤穂あしたば園「集団療育への指導助言」	5	橋本	西播磨
12.10	相談支援「つなぐ」研修会「発達障害について」 「コミュニケーションの難しいご家族への関わりかたについて」	15	和田	但馬
12.20	知的障害者更生相談所 職員研修「知的障害を伴う発達障害のある人の就労支援」	22	和田	神戸
12.21	強度行動障害支援者養成研修「障害特性に応じたアセスメント」	122	和田	神戸
12.26	相談支援「つなぐ」研修会「発達障害について」 「コミュニケーションの難しいご家族への関わりかたについて」	78	和田	中播磨
H29.2.1	赤穂あしたば園「母子保育」	5	橋本	西播磨
H29.2.1	真砂園職員研修「発達障害の理解」	25	和田	中播磨
H29.2.17	赤穂あしたば園「療育の取り組み」	6	橋本	西播磨
H29.2.17	書写ひまわりホーム「本人理解のために私たちができること」	20	橋本	中播磨
H29.3.2	神戸市東部就労支援ネットワーク会議職員研修 「発達障害のある人の就労支援」	25	和田	神戸
H29.3.17	みちしるべ神戸 職員研修 「発達障害の理解と支援 虐待防止を目指して」	55	和田	神戸

【教育】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
8.19	兵庫県特別支援教育センター 発達障害支援アドバンス研修「発達障害のあるこどもの就労支援の現状と課題」	125	和田	神戸
H29.2.10	三田市人権協会「発達障害にある人の就労支援について」	25	和田	阪神北
H29.3.16	大原簿記専門学校職員研修 「発達障害の理解と支援」	15	和田	西播磨

【保健】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
9.16	赤穂市家庭療育支援講座事前会議	8	橋本	西播磨
11.18	たつの市家庭療育支援講座4日目「サポートファイルを知ろう」	8	橋本	西播磨
H29.1.13	赤穂市家庭療育支援講座1日目「サポートブックを知ろう」	10	橋本	西播磨
H29.1.27	赤穂市家庭療育支援講座2日目「子どもの行動の理解」	8	橋本	西播磨
H29.2.10	赤穂市家庭療育支援講座3日目「関わり方の工夫」	7	橋本	西播磨
H29.2.17	赤穂市家庭療育支援講座4日目「ほめ方叱り方」	6	橋本	西播磨
H29.3.3	赤穂市家庭療育支援講座5日目「保護者の経験談」	10	橋本	西播磨
H29.3.10	赤穂市家庭療育支援講座6日目 「サポートブックと講座のふりかえり」	11	橋本	西播磨
H29.3.17	赤穂市家庭療育支援講座事後会議	9	橋本	西播磨

【一般】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
10.22	日本自閉症スペクトラム学会 資格認定講座「福祉領域」	98	和田	県外

【家族】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
6.30	とらいあんぐる「食事と子どもの成長」	28	橋本	中播磨
11.9	あこや学園保護者会「就園・就学に向けて」	12	橋本	阪神南
12.14	兵庫県手をつなぐ育成会 研修会「自閉症スペクトラムの理解と支援」	45	和田	神戸

【その他】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
11.12	アクロス「発達障害のある生徒への対応」	4	杉原	中播磨

(3) 刊行物の発行

内容	部数
発達障害、発達凸凹について「発達支援サポーター養成講座 一般コース案内」	3,000

(4) 研究発表、論文、分担執筆等

内容	担当
兵庫県人権協会「KIZUNA」12月号「発達障害への理解を深める」	和田

(5) ホームページの運営、管理

内容	概要(件数、内容他)
更新回数	回(研修会情報等)

3 県委託事業

事業名	内容
発達障害サポーター養成研修	・発達障害サポーター養成研修(一般コース、専門コース 児童期、専門コース 成人期)の実施

4 調査・研究

- ・「発達障害のある成人期の就労前段階支援に関するモデル事業」
①就労前段階の状態にある利用者への支援モデル作り、②ひきこもり状態にある利用者の保護者への支援モデル作り プログラムの共有(センター、全ブランチで実施、支援ができるよう内容の共有を行う)
- ・児童発達支援事業状況実施調査 ①選び方ガイドづくりのための施設見学を行う、②選び方ガイド試案を作る

5 機関会議

(1) 運営・連絡協議会の実施 実施回数(延 4 回)

協議会名	回数	日時	場所	内容	参加者数
運営協議会	第1回	7/11	県民会館	・前回議事録承認・H27年度 事業報告 ・H27年度研修会会計報告・人事について	8団体 24名
	第2回	H29 3/13	県民会館	・前回議事録承認・H28年度活動状況報告 ・H28年度 事業計画についての意見	7団体 名
連絡協議会	第1回	7/11	県民会館	・H27年度 事業報告 ・討議「早期支援について」	18団体 35名
	第2回	H29 3/13	県民会館	・H29年度 事業計画・H28年度活動状況報告 ・討議「研修の在り方」 ・行政機関による H29年度 事業計画	17団体 名

(2) ネットワーク会議等への出席 実施回数 (延 24 件)

主な会議名	役割	担当
厚生労働省 発達障害の情報提供等事業に関する運営会議	委員	和田
発達障害者支援センター 全国連絡協議会 役員会	副会長	和田
兵庫県 障害者雇用・就業支援ネットワーク会議	委員	和田
発達障害者等就労支援連絡協議会	委員	和田
ひょうごユースケアネット推進会議 代表者会議	委員	和田
ひょうごユースケアネット推進会議 実務者会議	委員	杉原
障害者自立支援協議会相談支援部会	委員	和田
広域特別支援教育連携協議会	委員	和田
特別支援教育就労移行推進協議会	委員	和田

6 ブランチ業務調整会議 (年 10 回 兵庫県障害福祉課 参加)

- ・センター各ブランチ間の業務上の調整、意見集約、関係機関情報の集約、活動に対する意見交換等を行う

II ブランチ的機能(担当圏域:東播磨、淡路)

1 重点的取り組みに対する総括

(1) 相談者への丁寧な支援と実践の積み重ね

相談者一人当たりの相談回数が増加している(一人当たり H27 3.3 回→H28 3.6 回)家族への支援や、関係機関への支援、調整に時間がかかることも増えており、その中で丁寧な支援を行った。

また、日々の支援を言語化した事例集を作成し、あかりの家の事例研究会に投稿した。

(2) ペアレントメンターの活動促進

兵庫県自閉症協会と共催で2回の講演会を実施し、55名の参加があった。また、関係機関から講師依頼や、相談依頼も見られ、活動促進が図られた。

上記の取り組みを事務局的な動きを行っている。

(3) あかりの家との積極的な連携

児童の相談事例で、児童ディサービスと連携することが多かった。家族の子どもへの関わりが難しい事例で連携することが多かった。また、高校生の不登校等の状態の人への作業体験の場として、あかりの家事例研究会の冊子作りの作業に従事し、経験を積み取り組みを行った。

2 個別支援

(1) 相談・発達・就労支援状況

① 相談支援 (実 428 人、延 1,545 件)

幼児期では診断前後の相談が多く、日々の育てにくさを感じどのように関わればよいか、小学校への引継ぎをどうするかという内容が多かった。小学生は学校での行動上の問題により保護者または教員が来談する事例が多い。中学生は小学校からの引継ぎに関わる学校と家族の調整を希望される相談が多かった。成人期の相談は、就業していて就業先でトラブルが起きる事例への相談が多かった。また、継続相談は引きこもり状態の相談事例が多かった。家庭基盤が弱い家族の相談が見られ、対応方法を伝えるだけでは難しく、関係機関との支援の調整を行う事例が見られた。ただ、義務教育終了後の事例は支援を担う機関が少なくなるため、主になって支援を行う事例も見られた。

② 発達支援 (実 63 延 353 件)

幼児、学齢期の児童に対して、個別に課題を通して子どもへの関わりを保護者へ助言指導した。また、発達支援を行って保護者を対象にした勉強会を定期的に行い、子どもの理解を深め、関わりを振り返ったり、大人になっていくことの視点を持って学びを深め、実際の生活と子育ての中で活かせるようにした。先輩の保護者の話を聞く機会を設けたり、互いの意見交換の場となり、保護者の気持ちの変化は大きく、子育てへの姿勢が変化した人が多かった。

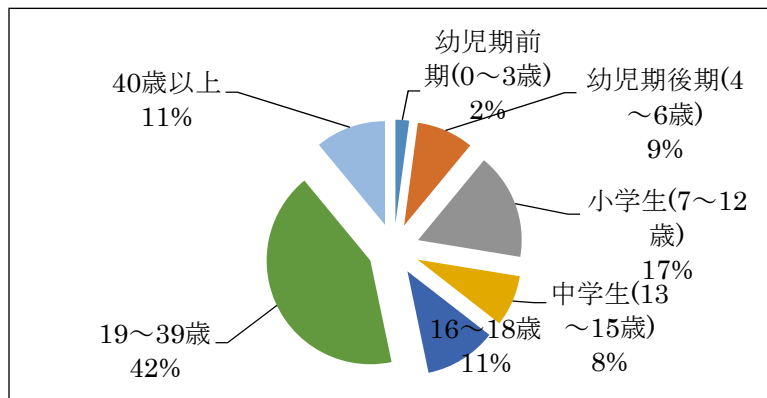
中学生以降の事例では、見立てのための発達検査、心理検査を実施し、本人、家族及び所属機関への説明を行った。

③就労支援（実 45 人 延 164 件）

就職者への就業中の状況把握を行う相談が多かった。就職の方法について、障害の開示、非開示の検討や、就労までに必要なことを確認することが多い。既就労者が職場で課題が出たとき企業へ訪問し、障害特性から考えられる改善方法などを伝え調整する。

（参考データ）

（a）相談支援（実人数）



（b）発達支援（実人数）

幼児期前期(0~3歳)	3
幼児期後期(4~6歳)	20
小学生(7~12歳)	21
中学生(13~15歳)	2
16~18歳	7
19~39歳	9
40歳以上	1
合計	63

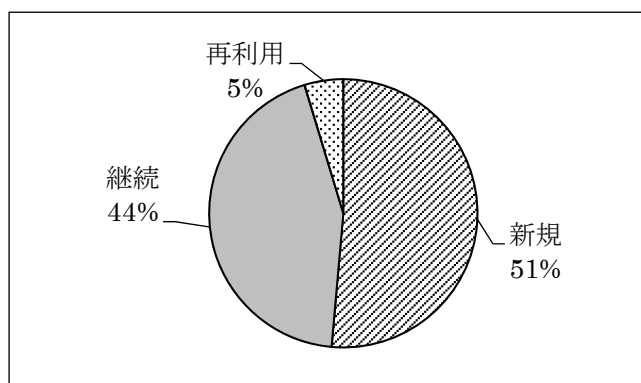
（c）就労支援（実人数）

18歳以下	1
19~39歳	35
40歳以上	9
計	45

（d）ライフステージごとの障害種別（相談支援実人数）

障害種別	幼児期前期 (0~3歳)	幼児期後期 (4~6歳)	小学生 (7~12歳)	中学生 (13~15歳)	16~18歳	19~39歳	40歳以上	合計
自閉症(知的障害の有無不明)	1	4	1	0	0	3	1	10
自閉症(知的障害を伴う者)	0	6	8	2	6	10	1	33
自閉症(知的障害を伴わない者)	0	2	2	0	4	5	1	14
アスペルガー症候群	0	0	4	8	4	21	3	40
広汎性発達障害 (知的障害の有無不明)	0	6	5	3	3	11	4	32
広汎性発達障害(知的障害を伴う者)	0	4	7	1	0	11	0	23
広汎性発達障害 (知的障害を伴わない者)	0	0	5	6	8	20	3	42
AD/HD	0	4	11	3	2	8	2	30
LD	0	0	0	1	0	3	0	4
その他 (発達性言語障害・協調運動性障害)	0	1	4	3	3	13	4	28
不明(未診断も含む)	8	11	24	7	18	76	28	172
合計	9	38	71	34	48	181	47	428
「不明（未診断も含む）」割合	89%	29%	34%	21%	38%	42%	60%	40%

(e) 新規・継続・再利用の内訳（相談支援 実人数）



(f) 年齢ごとの相談主訴

	幼児期 (0～6 歳)	小学校 (7～12 歳)	中・高校 生	19 歳 以上
相談の対象となっている児(者)が発達障害かどうか知りたい	7	3	1	25
現在の生活に関することや、家庭で家族ができることを知りたい	33	44	49	97
利用できる制度について知りたい(手帳、年金、手当、障害福祉サービスなど)	1	3	1	11
診断・相談・支援を受けられる機関について知りたい	7	3	5	55
現在通学している学校、利用しているサービス等に関する相談をしたい	8	33	17	23
進路や将来の生活に関する相談をしたい	9	5	16	32
対応困難な状況の改善について相談したい(強度行動障害、ひきこもりなど)	8	11	7	22
今後の就労について相談したい	0	0	2	16
現在勤めている職場に関する相談をしたい	0	0	1	11
その他	4	5	21	19
計	77	107	120	311

(2) 普及啓発・研修

①研修

○実施回数(実 1 回 延 2 回 参加者数 564 人)

研修会名	共催	参加人数
ペアレントメンター講演会(豊岡、加西)	兵庫県自閉症協会	56
市町発達障害窓口研修(東播磨)		9

②講師派遣

○実施回数(延 18 件 延参加人数 498 人)

【保健】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
H29.1.5	洲本市保健師研修会 「発達障害を背景にした引きこもりの状態の人への支援」	17	和田	淡路
H29.3.23	稲美町健康課「PARS と保護者経験談」	4	橋本	東播磨

【福祉】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
9.15	ハンズ支援者研修会「発達障害のある人の就労支援」	25	和田	東播磨
9.27	高砂市社協ボランティアセンター「発達障害の理解」	17	和田	東播磨
10.3	高砂市社協ボランティアセンター 「発達障がい児・者とのコミュニケーションの図り方」	17	橋本	東播磨
10.4	加古川市生活福祉課「発達障害の理解」	30	和田	東播磨
10.25	高砂市社協ボランティアセンター「まとめ 発達障害の理解」	14	和田	東播磨
H29.2.28	播磨町学童保育「本人理解と関わり方」	24	橋本	東播磨

【教育】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
8.3	兵庫県情緒障害教育研究会 フォーラム助言 「青年期の支援の現状と課題」	125	和田	東播磨
8.22	加古川市西ブロック幼稚園研修会「子どもへの関わり」	16	橋本	東播磨
H29.1.6	播磨町幼稚園研修会「自立を目指す療育 年長児の取り組み」	59	橋本	東播磨
H29.1.16	陵南中学校勉強会「本人の理解について」	15	橋本	東播磨
H29.1.20	加古川市西ブロック幼稚園研修会「行事と子どもの姿」	17	橋本	東播磨
H29.1.25	兵庫大学 平成 28 年度健康管理センター講演会 「発達障害のある学生の対応を考える」	25	杉原	東播磨
H29.2.27	播磨町幼小研修会「自立に向けた療育」	35	橋本	東播磨
H29.3.23	稲美町幼稚園職員研修「年長児の療育の取り組みと実践」	17	橋本	東播磨

【家族】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
11.18	わたぼうし保護者研修会「サポートブックの作成について」	20	橋本	淡路
H29.3.18	親の会マーチ「発達障害を背景にした児の不登校について」	20	和田	淡路

③機関コンサルテーション

(a) 関係機関へのコンサルテーション 実施回数（実 10 か所 延 23 件）

職員の対応方法や環境整備に関する助言・指導を訪問により実施。

実施対象機関		圏域	日程	担当
高砂市	ひまわり高砂	東播磨	4.21、7.13、11.14	和田
	みどりが丘保育園		6.21、10.21	橋本
	曾根保育園		10.26	橋本
播磨町	蓮池幼稚園		7.1、9.2、H29.1.20	橋本
	播磨幼稚園		7.13、9.23、12.6	橋本
	播磨西幼稚園		6.23、9.23、12.10	橋本
稲美町	母里幼稚園		6.21、10.31、H29.2.21	橋本
	バンビ第2 保育園		7.22	橋本
	天満幼稚園		7.6、12.12	橋本
たつの市	赤穂あしたば園	西播磨	11.22、H29.2.1	橋本

(b) 家庭療育支援講座 実施回数(実 3 か所 延 11 件)

講座実施に当たり、保健師等のスタッフへの技術付与を訪問により実施

実施対象機関	圏域	日程	担当
高砂市	東播磨	9.15、10.25、11.2、11.16、12.7、H29.1.18、1.25	橋本
たつの市	西播磨	11.18	橋本
赤穂市		9.6、H29.1.13、1.27、2.10、2.17、3.3、3.10、3.17	橋本

(3) 機関連携

① 発達障害者支援体制の整備及び機関連携のためのネットワーク会議等への出席

実施回数(延 10 件)

会議名		役割	担当
加古川市	障害者雇用連絡会議	委員	和田
高砂市	地域自立支援ネットワーク会議	委員	和田
	教育委員会	専門家チーム委員	橋本
稲美町	就学サポート会議	委員	橋本

②個別調整会議 実施回数(延 27 件)

6割が19歳以上の事例である。19歳以上の事例では、福祉サービス事業所利用の事例が多い。小、中学校では、学校との関係調整が必要とされる事例が多い。

③付置施設 あかりの家との連携

	内容
児童デイサービス あかりの家	・継続的な専門的療育を行うことが有用と思われる事例 (自閉症、軽度知的障害)
障害者支援施設 あかりの家 日中一時支援	・ひきこもりの状態から就労体験の場としての利用 (広汎性発達障害)
障害者支援施設 あかりの家 地域支援室	・福祉サービスの利用が必要な事例について、相談支援専門員と連携をした事例が多数。 ・サービス等利用計画の作成において連携した事例。

Ⅲ 職員体制

1 相談時間 (月)～(金)の平日 9:00～17:00

2 担当

① センター長	就労支援 担当	和田 康宏
② 主任相談支援員	発達支援 担当	橋本 美恵
③ 相談支援員	発達支援 担当	杉原 利恵
④ 相談支援員	相談支援 担当	山内 雅樹

管理責任者 坊垣 勝彦(あかりの家 副施設長 兼務)

3 職員研修

研修名	日付	受講者
発達障害者支援センター 全国連絡協議会 研修会	6.3～6.4	和田
全連協 近畿ブロック研修会	12.17	和田
ひきこもり学習会 支援者向け	H29.3.2	山内

4 職員の資格・免許取得状況(含、任用資格、受講証明)

資格・免許	人	資格・免許	人
臨床心理士	2	臨床発達心理士	1
特別支援教育士	1	教諭	3
社会福祉主事	1	保育士	1
新版 K 式発達検査中級研修修了	1	WAIS-Ⅲ知能検査研修受講	1

2016 (H. 28) 年 度

多機能型事業所 ワークホーム高砂 事業報告書

2017. 3. 31現在

I 利用者状況

1 定員と契約者数

事業種別	定 員	契約者数
生活介護事業	12人	14人
就労継続支援B型事業	28人	33人
合 計	40人	47人

2 市町別契約者数

市町	生活介護事業	就労継続B型事業	計
高砂市	7人	20人	27人
加古川市	1人	6人	7人
播磨町	1人	2人	3人
小野市	0人	1人	1人
姫路市	5人	4人	9人
合 計	14人	33人	47人

3 利用者年齢構成

(1) 生活介護事業

年齢	10歳代	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		合計 (人)
	~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59	
男	0	2	0	2	2	3	1	1	0	11
女	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
合計	0	2	0	2	4	3	2	1	0	14

	男 性	女 性
最少年齢	20歳9ヶ月	36歳0ヶ月
最高年齢	50歳4ヶ月	47歳5ヶ月
平均年齢	36歳9ヶ月	40歳5ヶ月
男女平均年齢	37歳7ヶ月	

(2) 就労継続支援B型事業

年齢	10歳代	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		合計 (人)
	~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59	
男	1	4	7	6	2	3	1	1	0	25
女	1	0	0	1	4	2	0	0	0	8
合計	2	4	7	7	6	5	1	1	0	33

	男 性	女 性
最少年齢	18歳0ヶ月	18歳1ヶ月
最高年齢	53歳0ヶ月	42歳10ヶ月
平均年齢	31歳9ヶ月	45歳9ヶ月
男女平均年齢	32歳9ヶ月	

4 利用延べ人数等

(1) 生活介護事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	15	15	15	14	14	14	14	14	14	14	14	14	171
延人員	298	303	298	273	296	285	278	286	273	260	255	296	3404

(2) 就労継続支援B型事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	32	32	32	32	30	30	30	30	30	30	30	33	371
延人員	657	674	659	645	653	634	618	625	610	610	576	678	7639

5 障害支援区分

(1) 生活介護事業

	区分3	区分4	区分5	区分6	計(人)
高砂市	1	0	4	2	7
加古川市	0	1	0	0	1
播磨町	0	1	0	0	1
姫路市	0	2	2	1	5
	1	4	6	3	14

(2) 就労継続支援B型事業

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計(人)
高砂市	5	0	6	8	0	0	1	20
加古川市	2	0	0	4	0	0	0	6
播磨町	0	0	2	0	0	0	0	2
姫路市	2	0	0	1	1	0	0	4
小野市	0	0	0	0	0	1	0	1
	9	0	8	13	1	1	1	33

6 知的障害の程度（「療育手帳」の判定による）

区分	重度	中度	軽度	なし	合計(人)
男	19	12	5	0	36
女	6	4	1	0	11
計	25	16	6	0	47
比率	53%	34%	13%	0%	100%

7 自閉症または自閉的傾向を有する者（入所時の諸書類をもとに集計）

区分	男	女	計
人員	17／36	2／11	19／47人
比率	47.2%	18.1%	40.4%

8 その他の障害、てんかん

区分			男(人)	女(人)	計(人)	総計(人)
身障	肢体	手帳所持	1(2種6級)	0	1	2
	難聴	手帳所持	1(1種2級)	0	1	
精神科薬		てんかん	6	0	6	6
延べ人数			8	0	8	8

9 利用者の通所方法

方 法 利用者		徒 歩	自 転 車	バ ス	J・R	バ ス と J・R	山 陽 電 車	付 添 通 所
男	3 6	7	8	0	3	1	3	1 5
女	1 1	2	2	0	2	0	2	2
計	4 7	9	1 0	0	5	1	5	1 7

Ⅱ 生活支援

1 日課

8 : 5 0	来 所
9 : 0 0	作 業
1 0 : 3 0	休 憩 15 分 間
1 2 : 0 0	昼 食
1 3 : 0 0	作 業
1 5 : 0 0	休 憩 15 分 間
1 7 : 0 0	全 作 業 終 了、帰 宅

2 余暇等の活動

① 昼食休憩の時間

休憩は「食堂兼休憩室」及び、更衣室で各自の好みの場所で自由にとっている。なお、自閉症の方については、落ち着ける環境を整える必要性から「会議室」や「静養室」を活用するほか、食堂内に固定の席を設けるなどの工夫を行っている。昼休憩が唯一のくつろげる時間となっていることから、昼食後にコーヒーや紅茶を楽しんでいただけるよう“わーくわく喫茶”をオープンしている。

② 休憩時間の過ごし方

音楽、ゲーム、絵描き、談話等、利用者の興味や関心に合わせ自由に過ごした。
自由な時間を過ごすことの苦手な利用者には、職員が話題を作り、会話や余暇を楽しんでいただけるように配慮した。

3 クラブ活動・サークル活動

① 料理クラブ

延べ45人の利用者が延べ24名のボランティアの支援を得て、季節の食材を利用した調理に挑戦し、楽しい一時を体験した。（曽根公民館にて計12回（毎月1回実施））

（ボランティア：魚橋さん、高橋さん、歌野さん、崎田さん）

② サークル活動

余暇活動の一環として月に2回（水曜日）、作業終了後の15:30～16:30までの約1時間、サークル活動を実施した。サークルは、「写真」「園芸」「図工」「スポーツ」の4つに分かれ、内容については利用者と職員とが話し合い計画的に実施した。

4 行事関係

（1）主な年間行事

5 月	①のじぎくスポーツ大会（陸上） ②ばんたん親善運動会 ③社会参加活動（レインボーデー） 5月～12月
6 月	姫路福祉保育専門学校学園祭納豆販売
1 0 月	五色精光園祭・バザー
1 1 月	ばんたんゆうあい文化祭
1 2 月	保護者会クリスマス会

1月	小旅行（京都鉄道博物館など）
3月	お疲れさん会

（2）社会参加活動（レインボーデー）

平成28年4月～平成29年3月にかけて利用者延べ45名が8班に分かれ、班毎に担当職員と行き先の企画を練り、公共交通機関を利用して社会参加活動（レインボーデー）を実施した。

（3）のじぎくスポーツ大会

5月28日、三木市総合防災公園総合陸上競技場において2名の利用者が参加した。男性1名が400m走壮年の部、女性1名が800m走壮年の部に参加、800m女性1名が金メダルを獲得した。

（4）ばんたん親善運動会

5月27日に、第28回ばんたん親善運動会が開催され、利用者5名と職員2名が参加。晴天の中、皆さん積極的に競技に参加され、また、他事業所の方との交流も深めることができた。

（5）姫路福祉保育専門学校学園祭、五色精光園祭に参加

6月19日、姫路福祉保育専門学校学園祭のバザーに利用者1名と職員2名で参加し、納豆の試食販売を行った。

11月6日、五色精光園祭に利用者2名と職員3名で参加し、納豆の販売等を行った。

（6）ばんたんゆうあい文化祭

11月22日、姫路市文化ホールで「ばんたんゆうあい文化祭」が開催され、利用者5名と職員2人が見学参加した。

（7）小旅行

平成29年1月29日、利用者43名、職員12名が大型バス1台を貸し切り、京都旅行を楽しんだ。行き先は「京都溪山閣、京都鉄道博物館」で、京都鉄道博物館では11班のグループに分かれて見学やお土産店をまわるとともに、昼食を摂った「京都溪山閣」では、ほぼ全員がカラオケを披露するなど、楽しい一日を過ごした。

（8）おつかれさん会

3月29日に1年間のおつかれさん会を開催し、姫路の“しらさぎマジック研究会”からお二人のマジシャンをお迎えし、生の手品を楽しんだ。また、一年の労をねぎらうためケーキと飲み物を用意し、パワーポイントで1年間の作業や行事・サークル等の振り返りも行った。

Ⅲ 作業支援

1 作業内容

作業の中心は、ゴトウアズプランニング社との連携によるクリーニング作業のほか、自主事業として「納豆」の製造・販売を継続して行った。

《班分け及び主な作業内容》

仕分け班	6人	大型洗濯機に投入する事前の仕分け作業。主として、シーツ類の仕分け
シーツ班	12人	シーツロール機等（シーツ乾燥・折りたたみ・結束等）、への投入や出荷管理
タオル班	10人	手作業によるタオルたたみ及び出荷管理
たたみ班	13人	衣類、布団、シーツ、タオル類のをたたみ、包装及び出荷管理
納豆班	6人	納豆の製造、販売、商品名「なっとこちゃん」

2 作業収入と工賃支給

	事 項	平成27年度	平成28年度	備 考
収 入	洗濯事業収入	14,256,000	15,091,818	ゴトウ・アズ・プランニング委託料
	納豆販売収入	3,027,656	3,298,062	自主生産事業
	本部会計より繰入	1,800,000	1,800,000	
	計	19,083,656	20,189,880	
支 出	工賃支給額	16,007,750	18,272,950	
	作業経費	2,489,896	1,875,820	賃借料・水道光熱費・納豆材料費等
	消費税	586,819	623,845	
	計	19,084,465	20,772,615	
	収支差額	▲809	▲582,735	

3 協力企業との関係

- ①クリーニング事業の協力企業・・・(株)ゴトウ・アズ・プランニング
- ②ワークホームの設立時は、株式会社MAO（オノエクリーニング51%、ゴトウアズプランニング49%出資の合弁会社）が協力企業であったが、平成22年にゴトウアズプランニングがオノエクリーニングの出資分を買い取り、協力会社はMAOからゴトウアズプランニングに変更となった。

《ゴトウアズプランニングとの話し合いについて》

平成28年度は、前年度から引き続き、安杖社長（ゴトウアズプランニング）と齋藤施設長、三原あかりの家施設長、藤原事務局長による現状の共有化と課題解決に向けた話し合いを計4回持った。

会議開催日 平成28年6月17日
平成28年8月10日
平成28年10月19日
平成29年2月8日

《保護者会の本社見学》

保護者会活動の一環として、平成28年11月19日ゴトウアズプランニング本社（姫路市豊富）への見学会を実施し、安杖社長から会社概要の説明をしていただいた。

4 作業環境の継続的改善

- ①平成25年度から作業環境の改善に取り組み、ルーファンの設置（2カ所）、排煙窓の新設工事（東西北面）を実施した。
- ②平成26年度は、シーツロール機の北側面に窓を新設し空気の入れ換えができる環境整備を実施した。
- ③平成27年度は、工場周辺のセメント舗装を実施し清掃がしやすい環境を整えたほか、工場内の安全通路の確保や立ち入り禁止区域の設定等、安全確保に重点を置いた環境整備を行った。
- ④平成28年度は、9月に駐車場を新たに新設し、仕分け班専用の更衣室を設置、施設内の電灯のLED化を完了、シーツ班投入機北側上部の窓を新たに増設、西側窓に遮光フィルムを貼る工事を行った。また、北側「松本商会」との賃借契約を3月末で解消した。

5 工賃の考え方及び、「業績賞与」について

「ワークホーム高砂工賃支給要領」に基づいて支給した。

基本的な考え方としては、事業にともなう純利益を工賃財源とし、年2回（4月、10月）の工賃見直し評価を実施し、各自の作業能力を評価したうえで時間給に換算し、働いた時間数を掛け合わせて工賃を決める方法を採用した。

平成28年度後期には、新たな「業績賞与」についてゴトウアズプランニングとの間で合意に達したことから、平成28年度「業績賞与」として、773,905円の新たな工賃財源を得ることができた。

6 就労支援について

本年度は、社会性の獲得に重点を置いた「清掃班」を設置し、社会的就労に向けた取り組みを開始した。

Ⅳ 健康管理・栄養管理

1 健康管理及び保健衛生等

- ① 「保健衛生会議」を月1回開催し、嘱託医師である井野医師の指導のもと、利用者の健康管理や職場の衛生管理に努めた。
- ② 利用者や職員の健康診断を実施し（今年度より「ストレスチェック」が追加）、その結果について井野嘱託医師から指導を受けた。
- ③ 作業場に温度湿度計を設置し作業環境の把握に努めた。特に夏場は、休憩（30分に1回）や水分補給を頻繁に行うなど、熱中症対策を重点的に行った。水分補給については、各利用者に水筒（保護者会から支給）1本をWHで配布し、各自の一日の水分量を職員が把握しながら水分管理を行った。また、作業場の気温が30℃を超える5月～10月にかけてポカリスエット（ペットボトル1本500ml）を配付し熱中症対策を行った。
- ④ 肥満の予防を図るため、定期的な体重測定を行った。また、糖尿病の利用者については、糖尿病食を斡旋するなどの対策をおこなった。
- ⑤ インフルエンザ・ノロウイルス対策では、施設内での手洗いの励行やうがい心がけを心がけた。また、今年度については、手ピカジェルでの消毒や次亜塩素酸ナトリウムを使つてのトイレ清掃を行った。
- ⑥ 井野先生の助言を受け、本年度もトイレ等の手洗い場についてはペーパータオルを使用した。
- ⑦ 定期的な健康診断と体重測定の実施
 - ・定期健康診断の実施（7月、1月（職員のみ））
 - ・「体重測定」の実施（4月、6月、8月、10月、12月、2月）
- ⑧ 歯科検診と歯磨き指導
 - ・加古川歯科保健センターから派遣される歯科衛生士による歯磨き指導（12月7日）を利用者全員が受け、その結果を家庭に知らせ、必要な人については歯科治療をお願いした。また歯科衛生士による歯磨き指導を契機として、昼食後の歯磨きへの関心を高めることに努めた。また、特に口内の汚れが多かった6名の利用者については、職員が付き添い歯磨きを徹底的に行った。

2 栄養・給食について

《給食委員会の開催》

8月19日、ひでかつ給食センター森下常務、管理栄養士東梅と施設長・担当職員が参加し、栄養、献立、食材、什器、調理等、食事に関する幅広い情報交換を実施した。メニューに関しても「改善できることは取り組む」とひでかつから回答を得た。月に1度の「カレーの日」を本年度から実施しはじめ、利用者の楽しみにつながっている。

《ひでかつ給食調理場見学実施》

12月28日、「ひでかつ給食センター」へ施設長と2名の職員が出かけ給食作業現場の見学を行った。

Ⅴ 利用者支援について

1 利用者支援

- ① 働くことを軸に、責任感・協調性（仲間意識）を育む支援に取り組んだ。個々の目標やテーマに添った関わりを大切にした。
- ② 個別支援計画の見直しを兼ねた個別懇談会を本人・保護者・施設長（サービス管理責任者）・担当支援員同席で年に2回実施した。内容は、作業面や生活面での支援に加え、GH体験利用や余暇の過ごし方なども盛り込んだ。そのため、GHを体験利用されるケースが増えている。
- ③ 利用者の健康面での支援を重視した取り組みを行った。一人暮らしの利用者の通院に付き添い、投薬管理や血圧・体重管理を行った。
- ④ 今後の就労を目標に置き、GHの清掃位置づけ“挨拶”“ルールに沿った仕事を丁寧に行う”などの支援を新たに行った。

2 あかりの家との連携

- ① 地域支援センターあいあむとの連携を図り、利用者の思いを尊重した事業所への受け入れや転出の調整を行った。
- ② ひょうご発達障害支援センタークローバーが主催する事業の会場として会議室を貸し出すとともに、あかりの家児童デイの夏休み企画としてクリーニング作業の場を提供するなど、法人内事業所との連携を図った。

Ⅵ 人権擁護、虐待防止の取り組み

虐待防止については、一日3回の引継ぎ時間を活用し、虐待案件について施設長から講義するなど職員の意識向上に取り組んだ。また、職員間で話し合える環境、“第三者が見たらどうか”など、対応を責めるのではなく客観的に自分を見る冷静さを常々共感するように心がけた。また、人権擁護については、津久井やまゆり園の事件や障害者差別解消法の施行に関する学習を行い、職員一人ひとりが障害者の人権について考える機会を提供し、人権意識の向上をめざした。

Ⅶ 防災

- 1 危険物管理 地下タンク及び地下埋設配管毎週点検記録表（消防署の指導にもとづき毎月曜日点検実施）
- 2 防火管理 毎月1回、防火管理自主点検表による点検を実施した。
- 3 車両管理 担当者により概ね1か月に1回、点検を実施した。
- 4 セキュリティー 防犯のため、サンヨーセキュリティーを本年度も活用した。
- 5 防災訓練 6月、3月に避難訓練、通報訓練、消火訓練を実施（3月は消防署の立ち合い有）

Ⅷ 職員研修等（施設外研修）

月	研 修 名	場 所	参加者名
5	障害福祉施設新任職員研修	神戸	岡田、大谷
6	全国知的障害者関係施設長会議 ステップアップセミナー 高砂市危険物安全大会 障害福祉施設新任職員研修	横浜 京都 高砂 神戸	齋藤 楠 桂 三輪
7	兵庫県知的障害者施設協播地区職員研修会 障がい者の働く場パワーアップフォーラム 全国社会就労センター総合研究大会 てんかん基礎講座 クリーニング師研修	小野市 大阪 三重 大阪 加古川	宮本、松藤 西野、楠 西野 楠 楠、宮本、松藤
8	播地区施設長・職員合同一泊研修会 兵庫県知的障害者施設協会播地区施設長及び職員研修会	姫路	齋藤、西野、宮本
9	福祉の集い クリーニング業務従事者講習	神戸 加古川	齋藤、宮本（保護者：金谷、光宗、東西） 桂、藤本
10	兵庫県知的障害者施設協会播地区職員研修会 病院寝具管理士認定講習会	小野市 大阪	齋藤、藤本、三輪 楠
11	クロネコDM便お仕事説明会	三田市	西野、楠
12	就労支援フォーラムNIPPON2016	東京	齋藤
1	兵庫県知的障害者施設協会施設長研修会 生産活動・就労支援部会施設長及び職員研修会	神戸 神戸	齋藤 宮本
2	全国社会就労センター施設長研修会	横浜	齋藤

《施設内研修・学習会》

職員学習会を2カ月に1回程度の割合で実施

内容：自閉症の方への療育支援に重点を置いたテキスト学習

テキスト：『個別の指導における子どもとの関係づくり』（著：青山新吾ノートルダム清心女子大学准教授）

IX 資格取得等

資格名称	取得者氏名
食品衛生責任者	三輪 明子
病院寝具管理士	楠 英充

X 施設サービス評価、苦情解決

1 施設サービス評価

本年度は受診せず

2 サービス苦情解決

年2回の保護者懇談会において保護者からの要望等を積極的に聞くように努めたほか、食堂に「意見箱」を設置して利用者の声を聞くように努めた。また、毎月の保護者会役員会や保護者会行事に施設長が参加し、保護者の要望等を積極的に聞くように努めた。

苦情受付担当者：西野浩美

苦情解決責任者：今津房子（理事）

第三者委員：富士原 一成（前高砂市社協理事長）、高尾 剛一（あかりの家 前監事）

XI 地域支援

事 項	内 容
1 施設見学	11月28日・29日 曾根小学校（4年生） 11月15日 東はりま特別支援学校（生徒40名、教員15名）
2 特別支援学校実習	東はりま特別支援学校2名（延べ10日） 播磨特別支援学校2名（延べ5日）
3 体験実習	一般実習2名（述べ3日）

XII 地域交流

1 人権学習

11月28日・29日の2日間にわたり、曾根小学校4年生4学級の児童が今年も人権学習のために当施設を訪れた。2日間4回に分け、付き添いの教諭や児童と利用者との交流や作業体験を行っていただき、より実感のある人権教育の促進に寄与した。

2 機関紙の発行

毎月、保護者通信を「月刊ワークホームだより」として発行し、地域の方や関係者に配布した。
（配布先：利用者（保護者含む）、地域の関係者や協力企業、理事・評議員等の関係者）

3 ホームページの更新

ワークホーム高砂のホームページを平成27年度に県立総合リハセンター内の重度障害者在宅就労者の会 e-work に依頼し作成し、本年度は「月間ワークホームだより」を毎月掲載更新した。メンテナンスについては、平成28年7月1日から平成29年6月30日までの期間で再契約した。

XⅢ 保護者会活動

1 年間活動について

(1) 保護者会主催事業

①保護者会総会 ②WH環境整備、工場清掃 ③父親の会 ④クリスマス会（忘年会）⑤保護者研修会
⑥一年を振り返る会

(2) ワークホーム高砂との共催行事

①保護者参観 ②保護者懇談会

(3) 本部・企画委員会（役員会）

①毎月1回開催

2 年間行事実績

	日 程	会議・行事等	内 容	参加数
4月	4月16日（土）	○第1回本部・企画委員会	・総会準備、打ち合わせ 等	13名
5月	5月22日（日） 10:00～11:30	《保護者会総会》	・平成28年度事業計画、予算の審議と議決	27名 委任 2名
	13:00～14:30	○第2回本部・企画委員会	・環境整備行事についてなど ・保護者研修会など	13名
6月	6月19日（日） 10:00～11:30 11:30～12:30	《第1回環境整備、工場清掃》	・駐輪場の草引き、工場の清掃 ・昼食を摂りながら懇談	31名
	13:00～14:30	第3回本部・企画委員会	・研修会について 等	14名
	6月 7日（月） 9日（木） 10日（金） 11日（土）	《保護者参観》	・保護者がWHに出向き、クリーニング作業と納豆作業を参観 ・保護者の都合の良い日を選定	延べ 36名
7月	7月17日（日） 10:00～11:30 11:30～12:30	《第2回環境整備、工場清掃》 ※6月行事に参加できなかった人 に参加を促した	・駐輪場の草引き、工場の清掃 ・昼食を摂りながら懇談	21名
	13:00～14:30	第4回本部・企画委員会	・保護者研修会について など	16名
8月	8月20日（土） 10:00～12:00	第5回本部・企画委員会	・保護者研修会、父親の会、など	13名
9月	9月18日（土） 9:00～18:00	《第1回保護者研修会》	（候補施設） ・京都ライフサポート協会が経営する事業所の見学	32名
9月	9月 5日（月） 6日（火） 9日（金） 12日（月） 15日（木） 16日（金） 20日（火） 22日（木） 23日（金）	《保護者懇談会（前期）》	○保護者がWH職員と利用者の日常について話し合うとともに、個別支援計画の確認を行った	延べ 43名
10月	10月 1日（土） 10:00～12:00	第6回本部・企画委員会	・父親の会、など	16名
	10月23日（日） 9:30～13:00	《父親の会》	・父親を中心に駐車場の除草やクリーニング作業で使用するプラダン製作	14名

	13:00～15:00	第7回本部・企画委員会	・保護者研修会、クリスマス会など	15名
11月	11月19日(土) 9:30～11:30	《第2回保護者研修会》	GOTO本社の見学	25名
	13:00～15:00	第8回本部・企画委員会	・クリスマス会 など	13名
12月	12月18日(日) 12:00～13:30	《クリスマス会(忘年会)》	・クリスマス会、ビンゴゲームなど ワークホーム高砂食堂にて実施	46名
	10:00～12:00	第9回本部・企画委員会	・一年を振り返る会など	14名
1月	1月14日(土) 10:00～12:00	第10回本部・企画委員会	・一年を振り返る会など	15名
2月	2月19日(日) 10:00～12:00	《一年を振り返る会》	・スライド写真の上映、保護者による活動の振り返りなど	27名
	13:00～15:00	第11回本部・企画委員会	・次年度活動についてなど	15名
	2月13日(月) 14日(火) 16日(木) 17日(金) 20日(月) 21日(火) 22日(水) 27日(月) 28日(火)	《保護者懇談会(後期)》	○保護者がWH職員と利用者の日常について話し合うとともに、個別支援計画の確認を行った	延べ 44名
3月	3月11日(土) 10:00～12:00	第12回本部・企画委員会	・次年度総会に向けた準備など	15名

XIV 総務関係

1 職員の採用・退職・異動

(1) 採用

- ・正規職員 支援員 2人(4月)
- ・パート職員 支援員補助 1人(3月)

(2) 退職

- ・正規職員 支援員 1人(3月)
- ・嘱託職員 支援員 1人(3月)
- ・パート職員 支援員補助 1人(7月)

2 職員構成

(2017. 3. 31現在)

身分・所属 \ 職種		施設長	医 師	支援員	作業 支援員	支援員 補助	事務員	看護師	計
正規・嘱託 職員	男	1		6	1				8
	女			5			1		6
	計	1		11	1		1		14
補助職員 (パート)	男					2			2
	女					3		1	4
	計					5		1	6
合 計		1	(1)	11	1	5	1	1	20

※1 () は嘱託医師

※2 年度末に退職する職員を含めて記載

3 職員年齢構成

身分・所属 \ 年代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	計
正 規・嘱託 職員	8	1	3	2		14
補 助 職 員			1	3	2	6
合 計	8	1	4	5	2	20

2016(H. 28)年度 グループホーム(共同生活援助)事業報告書

1 施設の名称、定員(現員)及び所在地

名称	定員(現員)	所在地
希望山荘日笠	7人(6人)	兵庫県高砂市曾根町1704-4
オリーブの家	7人(6人)	兵庫県高砂市阿弥陀町魚橋375-16

2 利用者(入居者)の状況

《希望山荘日笠》

(H. 29. 3. 31現在)

性別	年齢	療育手帳	障害程度	勤務先、所属等	住所地	契約日(生活ホーム含)
女性	47	A	区分5	ワークホーム高砂(生活介護)通所	高砂市	H. 6. 4. 1~
男性	68	B1	区分4	ほっとスペース(生活介護)通所	高砂市	H. 7. 7. 1~
男性	57	A	区分5	あすなろ学園(生活介護)通所	高砂市	H. 14. 7. 1~
女性	55	A	区分1	こころね(生活介護)通所	高砂市	H. 27. 6. 15~
男性	32	A	区分2	ワークホーム高砂(就労B)通所	姫路市	H. 27. 10. 1~
男性	33	A	区分2	ワークホーム高砂(就労B)通所	姫路市	H. 27. 10. 1~

《オリーブの家》

性別	年齢	療育手帳	障害程度	勤務先、所属等	住所地	契約日(生活ホーム含)
男性	50	B1	区分5	ワークホーム高砂(生活介護)通所	高砂市	H. 6. 4. 1~
男性	43	A	区分5	ワークホーム高砂(生活介護)通所	高砂市	H. 25. 11. 1~
男性	44	A	区分3	ワークホーム高砂(就労B)通所	高砂市	H. 27. 8. 1~
男性	46	A	区分6	ワークホーム高砂(生活介護)通所	姫路市	H. 27. 5. 1~
女性	36	A	区分4	ワークホーム高砂(生活介護)通所	姫路市	H. 28. 4. 1~
男性	43	A	区分4	ワークホーム高砂(生活介護)通所	播磨町	H. 28. 9. 1~

利用者の平均年齢=46. 2 歳

3 職員

(H. 28. 4. 1~H. 29. 3. 31)

職 種	常勤・非常勤・兼務等	性別	年齢
管理者	あかりの家副施設長兼務	男性	57
サービス管理責任者	管理者兼務		
生活支援員兼世話人	常勤	女性	46
	常勤	男性	29
	常勤	男性	29
	常勤	男性	24
	常勤	女性	21
世話人	非常勤(パート)	女性	56

4 運営について

① 安全で安心なホームづくり

夜間の安全を守るための「宿直」制度については、あかりの家やワークホーム高砂の協力を得て、法人全体で支える仕組みとして本年度も継続し、職員間の連携を更に強めながら、安全で安心な支援体制を確保した。

また、定期的な生活器具の安全点検や利用者の避難訓練を実施するなど、安全で安心なホームづくりに取り組んだ。

② 入居者の健康管理の充実

入居者の健康管理の充実を図るため、定期的な医療機関への受診(歯科、耳鼻科、内科など)に加え、成人病予防などを意識した食事の提供、適度な運動の確保などに努めた。

③ 入居者の自由時間の充実など

豊かで広がりのある暮らしを創るため、入居者の自由時間の充実、特に休日の過ごし方については、できるだけ多様な過ごし方が体験出来るように努めるとともに、外出機会を積極的に設けた。特に本年度は、それぞれのホームでグループ外出を企画し、希望山荘日笠は11月12日に加古川ツデーマーチへ、オリーブの家は11月26日に大阪城へ出かけ、楽しい一時を過ごした。また、誕生会やクリスマス会などの季節行事を実施するとともに、11月20日には関係者を招いて「手作りベーコンパーティー」を開催した。

④ 体験宿泊の継続実施

グループホーム希望山荘日笠の空き部屋を活用し、地域の在宅障害者が親元を離れて生活体験をする「体験宿泊」を積極的に位置づけ、在宅障害者の地域生活を支援した。5人の利用者が述べ88日利用した。

⑤ 支援員、世話人の専門性の向上に向けた取り組み

入居者の生活の質の向上や安全で安心な生活づくりのためには、支援員や世話人の専門性の向上が欠かせないことから、職員の資質向上のための研修機会を積極的に設けた。支援員が10月14日に兵庫県知的障害者福祉大会講演会に参加した。

⑥ 新規グループホームの施設整備と開設に向けた準備

障害者支援施設で暮らす重度の自閉症者の地域生活への移行と、在宅の自閉症者の親亡き後を想定して、彼らが地域の中で必要な支援を受けながら安心して暮らせるグループホームを、国及び県の補助金を得て新たに整備した。また、2017年4月の開設に向けて、支援体制の確保や新たな入居者の選定等の準備を進めた。